

平成27年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

結果と考察



神石高原町教育委員会

目 次

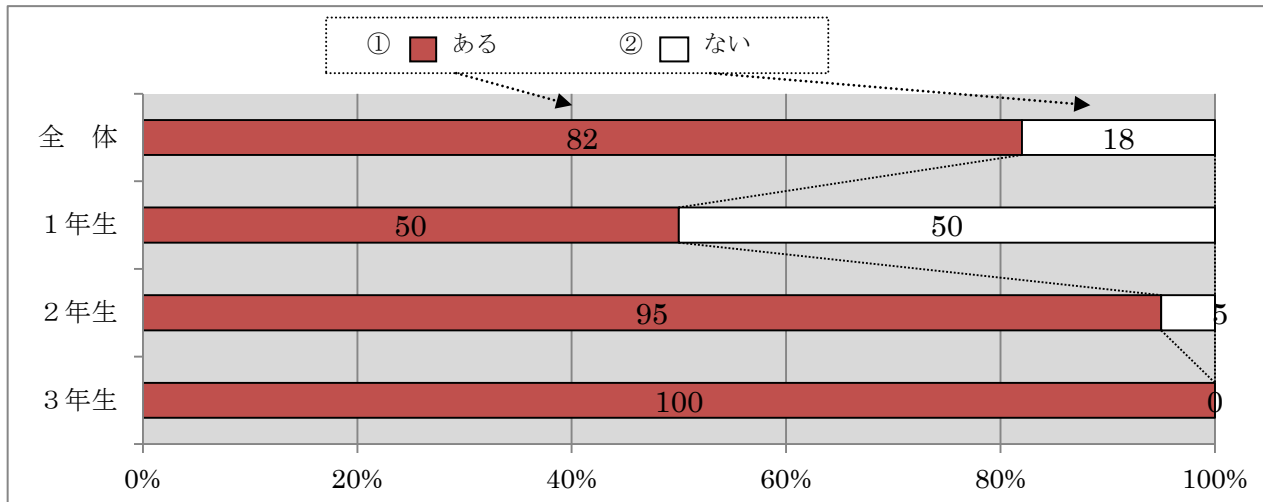
	ページ
I. 中 学 生 編	1 ~ 7
II. 高 校 生 編	8 ~ 12
III. 中・高教職員編	13 ~ 16
IV. 小・中学校保護者編	17 ~ 22
V. 地 域 編	23 ~ 24

回 答 者 数

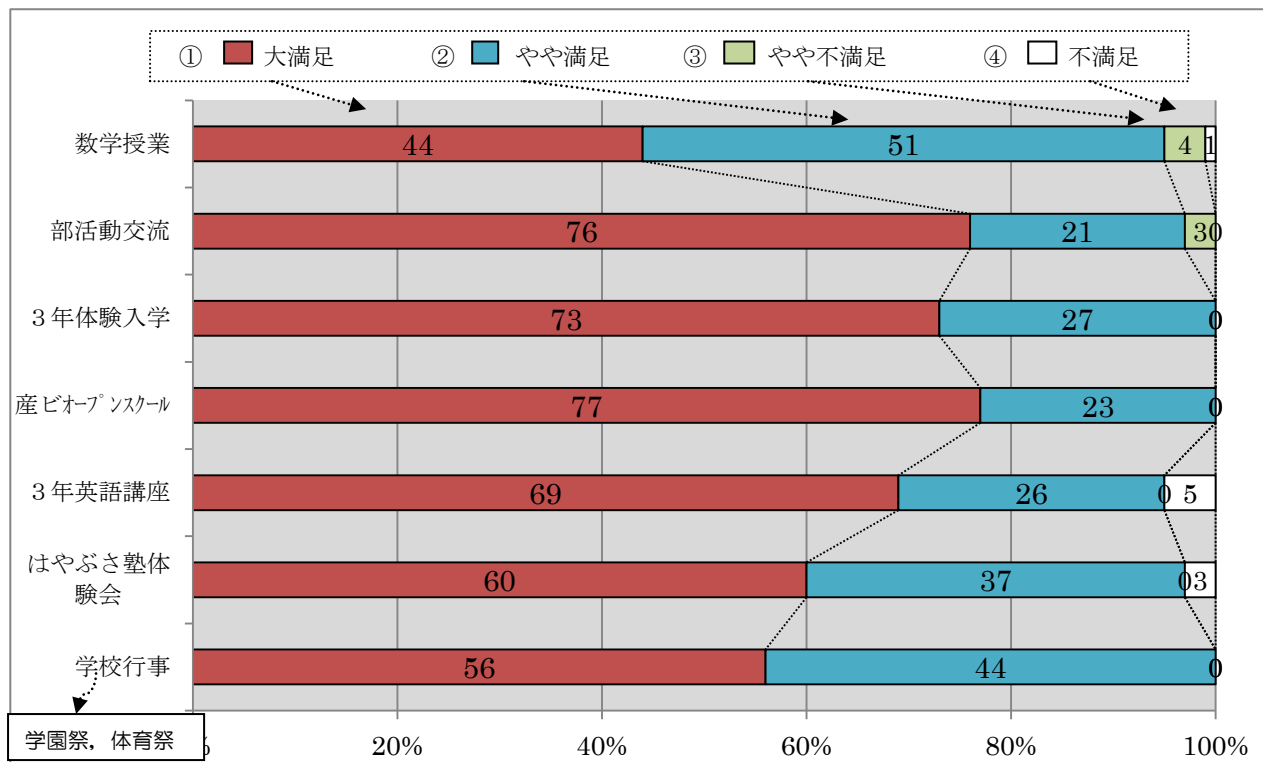
1. 中 学 生	回答者数 <u>205人</u> / 在籍者数 209人
2. 高 校 生	回答者数 <u>174人</u> / 在籍者数 180人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>53人</u> / 全教職員数 55人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>166人</u> / 対象児童数 166人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>180人</u> / 生徒総数 209人
6. 地 域	回答者数 <u>74人</u> / 質問者数 96人

I. 町内中学生に係るアンケート調査の結果と考察

1(1) あなたは本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、行事に参加したことがありますか。



(2) 上記(1)の質問で「① ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

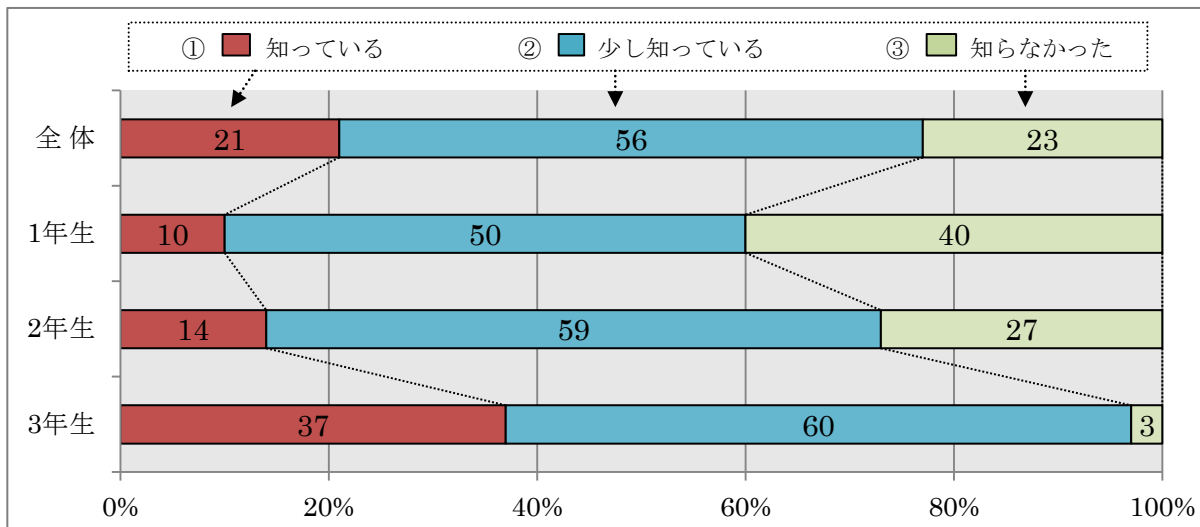


考察 本年度の「定例的な数学の交流授業」は下学年において未実施の学校もあり、油木高校との連携教育活動体験者は82%であった。その中で、「数学」の授業満足度は95%が「大満足・やや満足」の高い肯定的回答であったが、「大満足」が唯一50%以下であった。今後も一層効果的な交流授業を実践していくために、授業研究やアンケート調査などが計画的に実施され、生徒の満足度を高めていく取組がなされることを期待している。

その他の項目（部活動・3年体験入学・産ビオブンスクール・3年英語講座・はやぶさ塾・学校行事）においても、90%以上の高い肯定的評価であるだけに、今後も積極的な連携教育活動を展開していく必要がある。

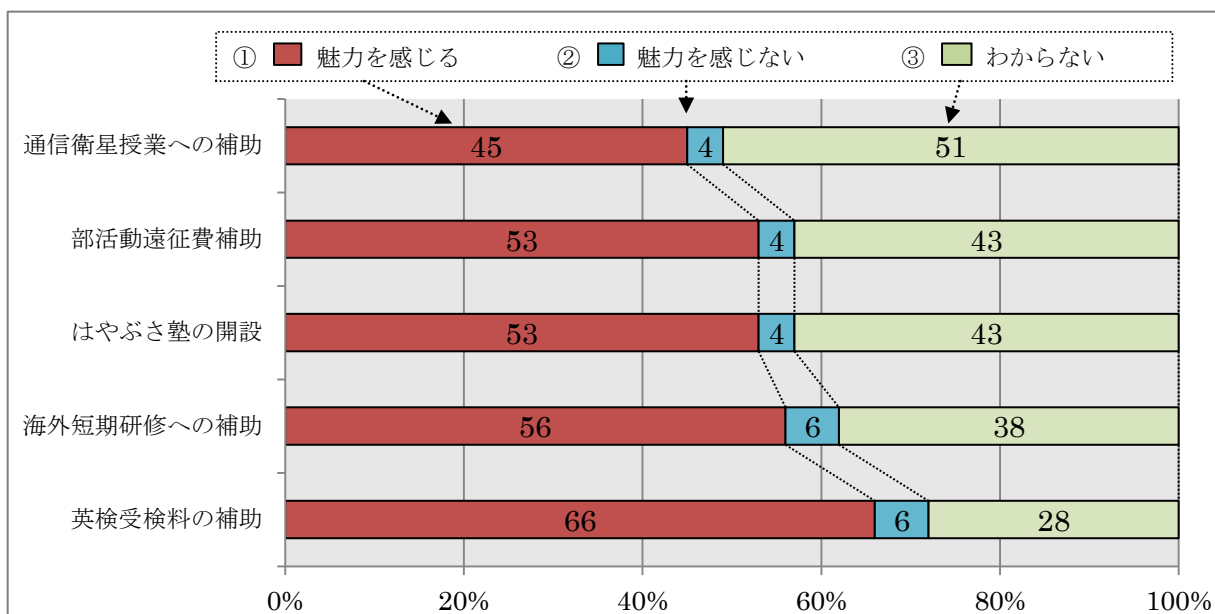
② 神石高原町では「油木高校の魅力づくり」として、色々な支援（通信衛星授業の受信補助・部活動遠征費補助・学習支援塾「はやぶさ塾」の開設・海外短期＜語学・農業＞研修事業への支援・英語検定受験料補助）を実施していますが、そのことについて次の(1)～(6)の質問に教えてください。

(1) 油木高校への色々な支援内容について知っていますか。



考察 高学年になるほど「知っている」率は高い。しかし、「少し知っている」を含めると60～90%を占めるが、支援内容の中身は「油木高校の魅力」でもあるので、十分理解してもらうことが重要である。よって、全学年とも引き続き理解度を高めていく取組なり、情報提供が必要である。

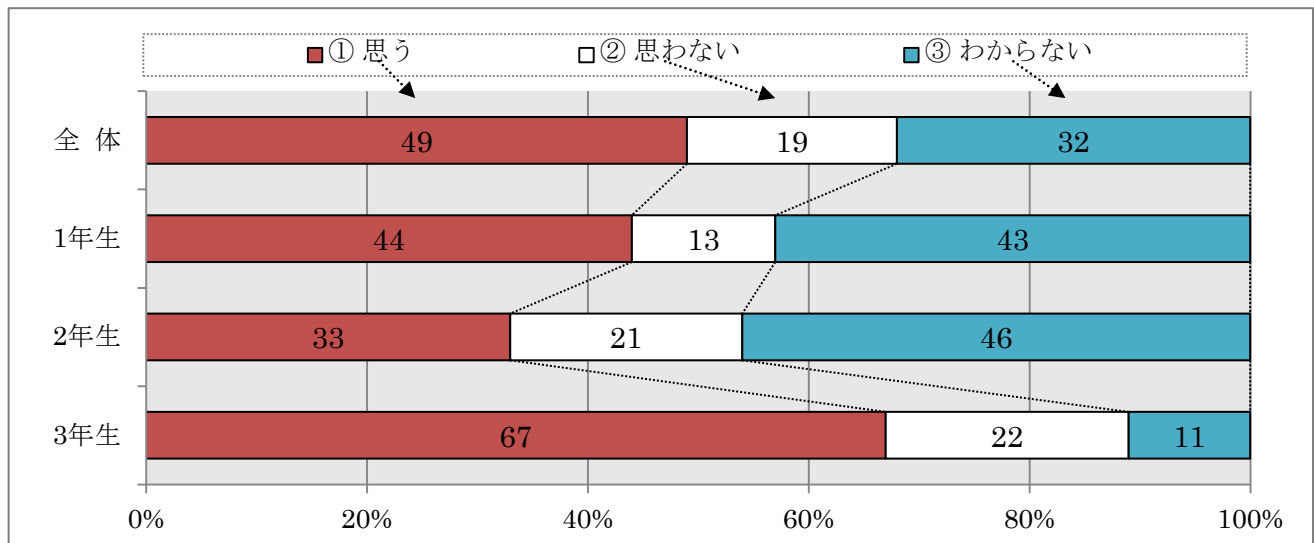
(2) 次のような支援（① 通信衛星授業への補助 ② 部活動遠征費補助 ③ はやぶさ塾の開設 ④ 海外短期研修への補助 ⑤ 英検受験料の補助）についてどう思いますか。



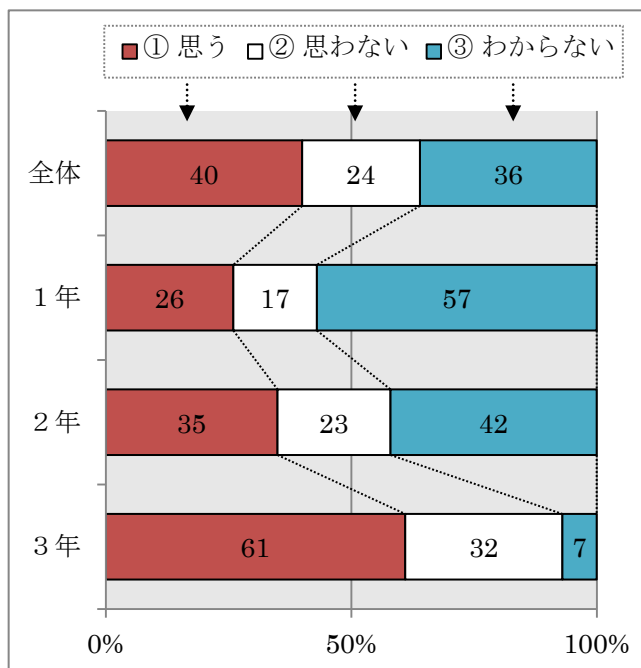
考察 「通信衛星授業への補助」以外の支援は「魅力を感じる」が半数以上を占めており、評価が高い。しかし、中学生にとっては、その中身が分からないこともあるので、十分な説明や「はやぶさ塾体験会」などを実施していく必要がある。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

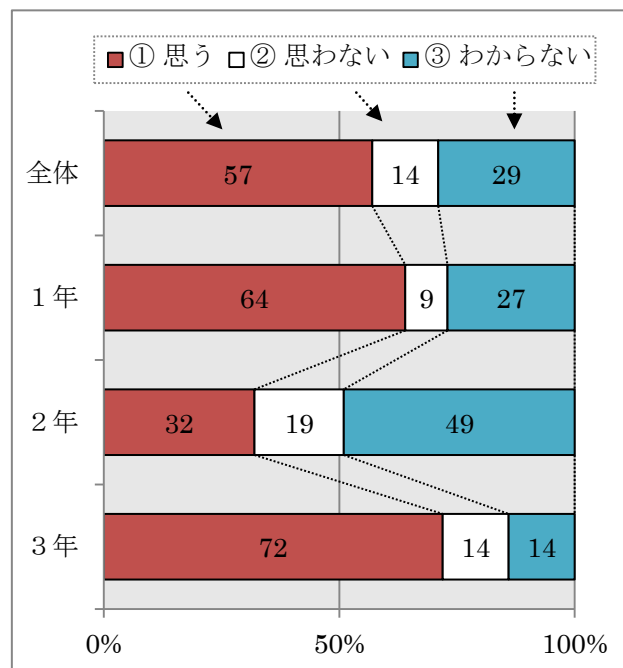
< 2校全体では >



< 三和中 >



< 神石高原中 >



考察 全体では、油木高校へ進学したいと「思う」は49%（前年40%、前々年43%）と、年々増加傾向にある。一方「思わない」も19%（前年24%、前々年23%）で、年々減少傾向にある。

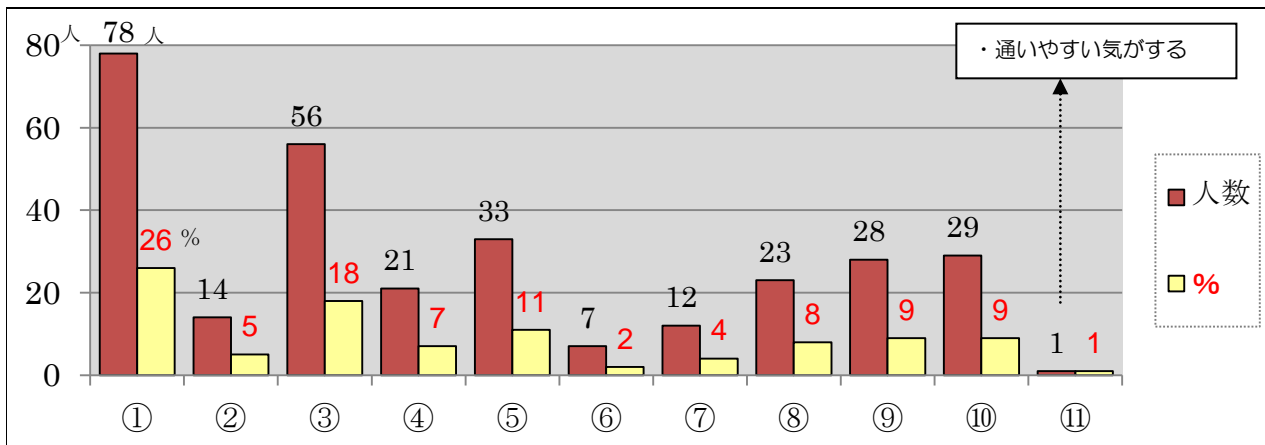
学年別では、3年生が例年のごとく「思う」が60%以上と格段に高い。反対に2年生は「思う」が33%と最低であった。来年度は人数が少ない(63人)だけに気になるところである。

一方、学校別で神石高原中学校1年生の64%が「思う」は大変喜ばしいことである。いずれにしても、今後において油木高校への地元率は最低でも60%以上を維持し、尚かつ学年54人以上（学年定員80人の2/3以上：県教委の指針数値）の生徒確保が重要である。その数値をお互い意識して取り組んでいく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「① 思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

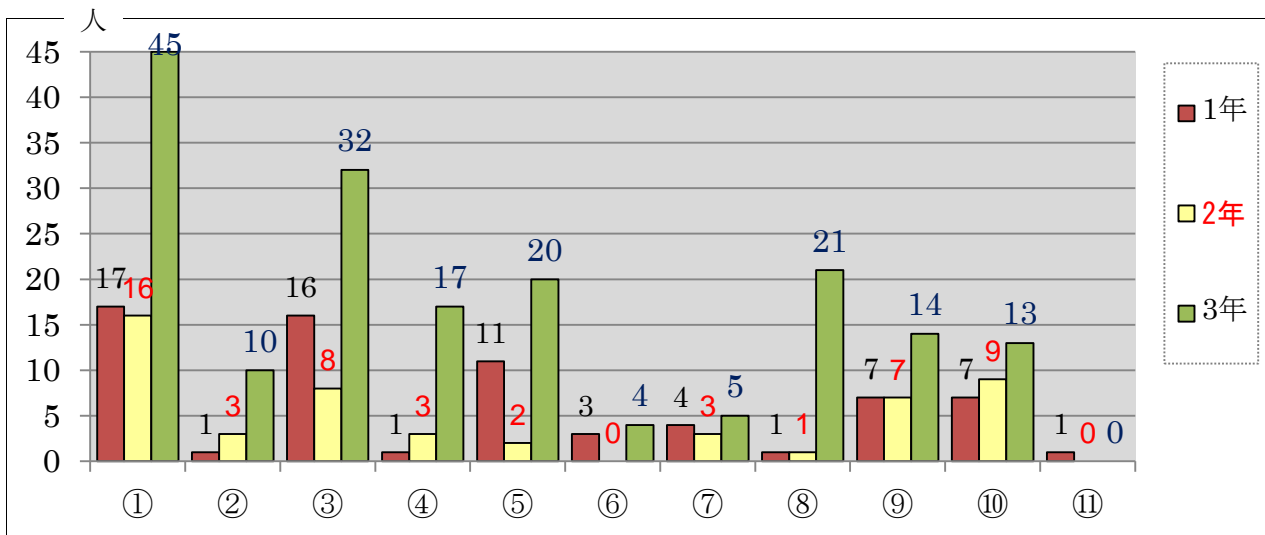
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 町の色々な支援制度がある ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<2校全体では>



- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 町の色々な支援制度がある ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<学年別の人数では>



考察 ・2校全体で多い順は、1位：①「通学に便利」(26%)、2位：③「自分の希望」(19%)、3位：⑤「クラブ活動面」(11%)と続いている。このことから、最も多く「通学に便利」と答えているだけに、地元高校の存続は今後も堅持していく必要がある。

・学年別で特徴的なものとして、3年生が「④教育内容面」「⑧町の色々な支援制度がある」を多くあげている。

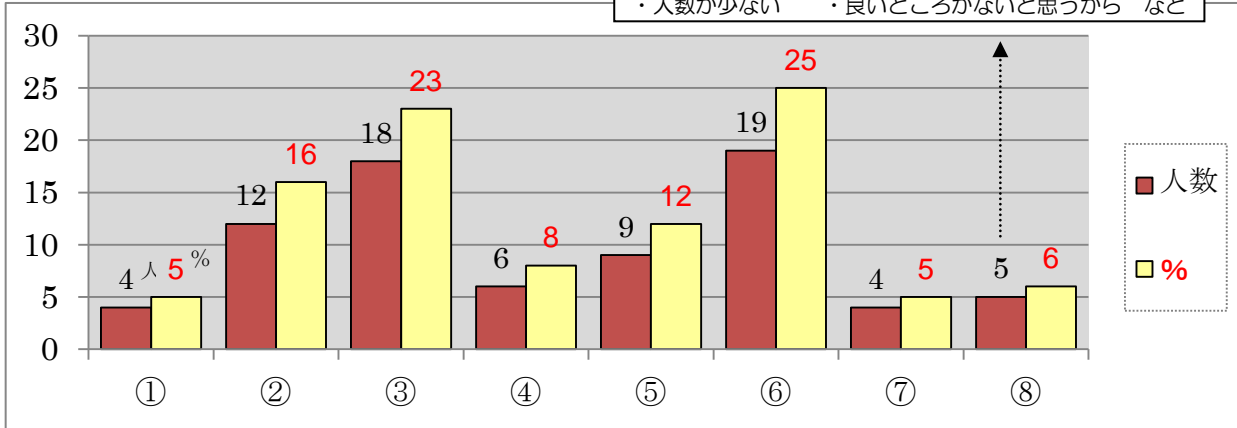
・高学年ほど多項目にわたって複数回答している生徒が多く見られる。これは、油木高校の良さを多方面にわたって感じていると思われる。そのことを低学年にも浸透するように情報提供していく必要がある。

(3) 3(1)の質問で「② 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

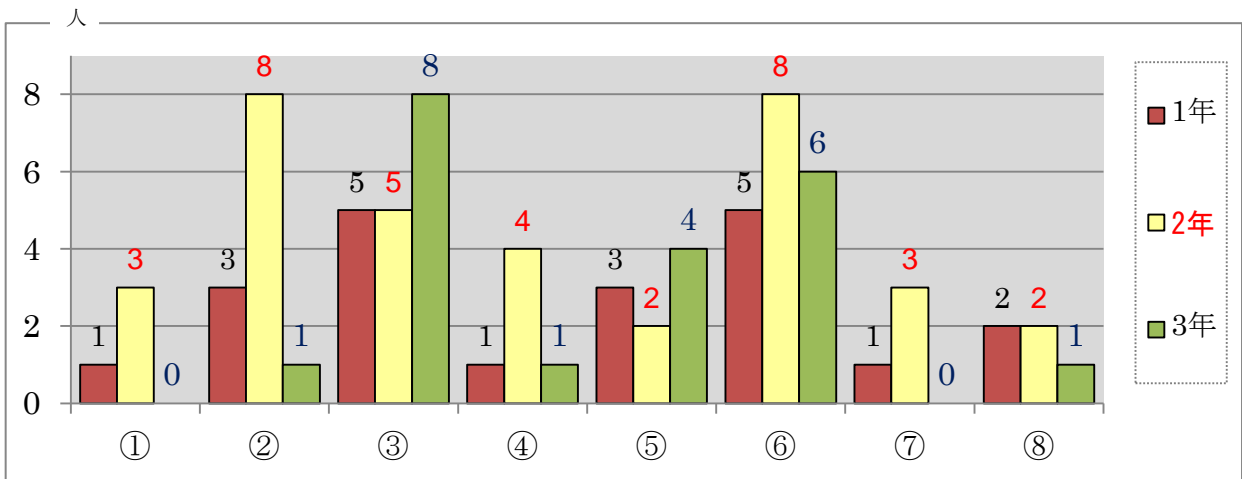
<2校全体では>

・他校への進学希望(2) ・面白くなさそう
・人数が少ない ・良いところがないと思うから など



- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<学年別の人数では>



考察 ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面で」(25%)、2位：③「クラブ活動面」(23%)、3位：②「教育内容面」となっており、ほぼ昨年度と同様であった。

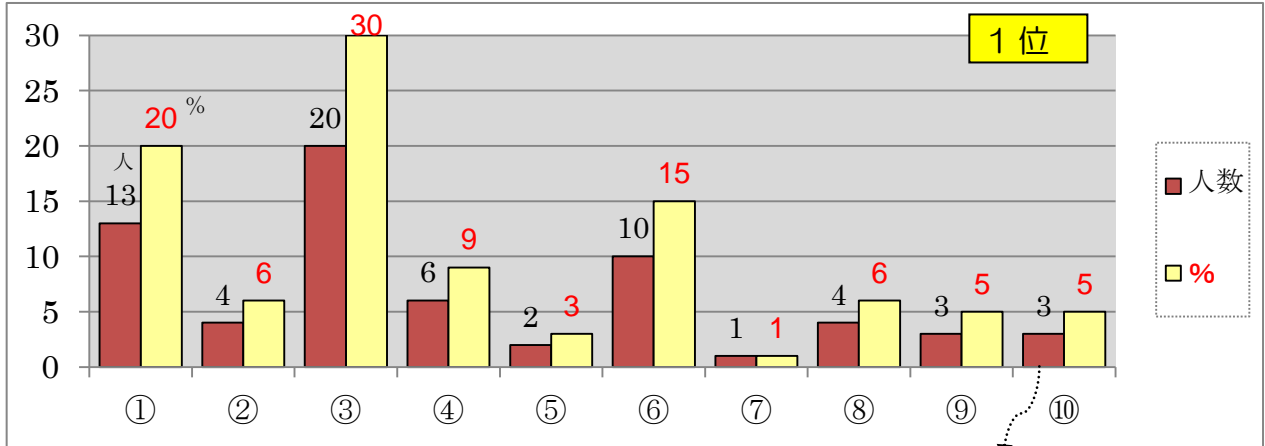
・「高卒後の進路面」については、「油木高校の進路指導や進路実績」を分かりやすく紹介したり、大学受験に効果的な通信衛星授業や公設塾などをしっかりとアピールしていく必要がある。

・「クラブ活動面」においても、小規模校でのデメリットもあるがメリットもあり、尚且つ、油木高校には体育・文化クラブ両面で全国大会出場し、好成績をあげた先輩もいることを紹介していければと考える。また、部活動交流を実施しながら、中学生の理解を図っていく必要がある。

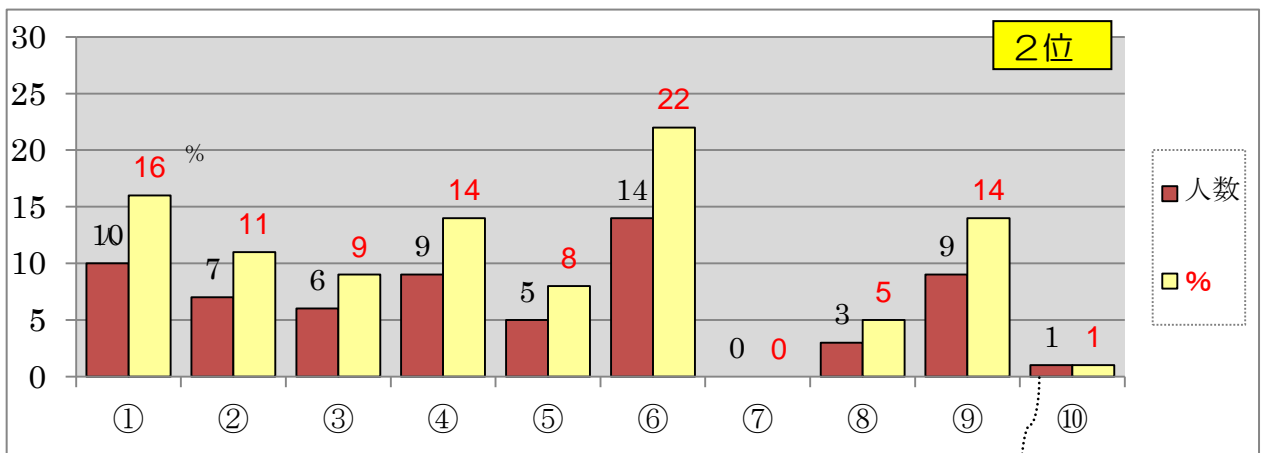
(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する（高校を選ぶ）上で、重要視したいことは
 どんなことですか。 下記の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ選び、番号で教えてください。

- | | | | | |
|----------|----------------|------------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 市町からの色々な支援制度 | ⑧ 親や家族のすすめ | ⑨ 友人関係 | ⑩ その他 |

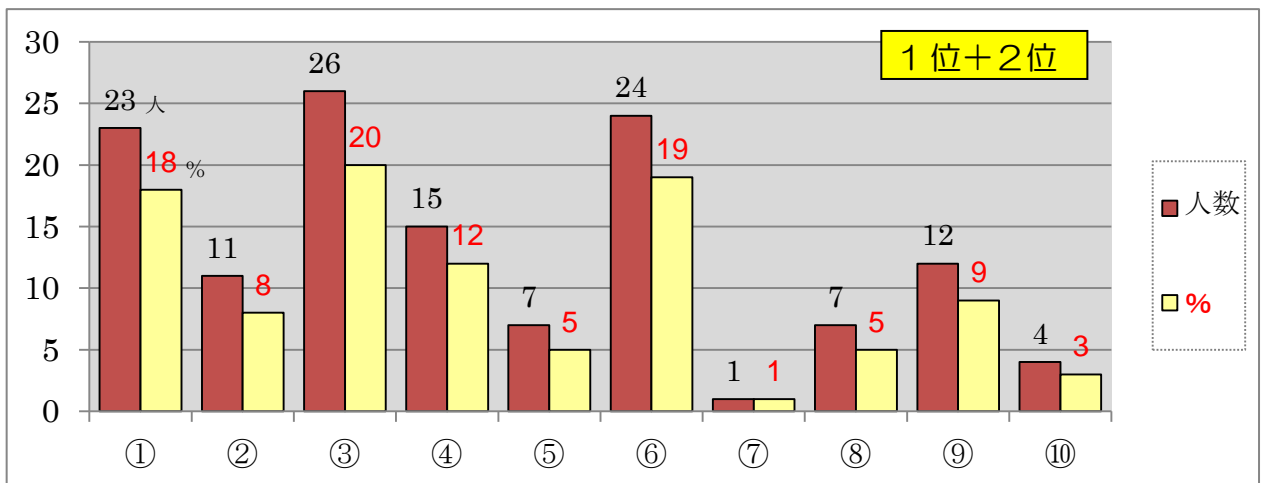
<2校全体では>



進学できる気がしない、学校行事が楽しいか、まだ考えてない

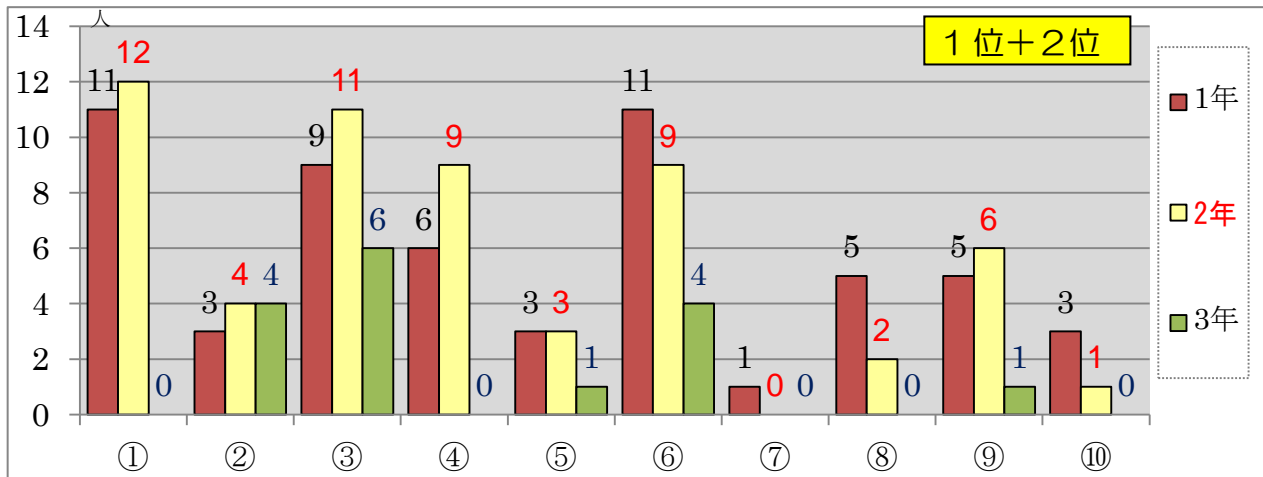
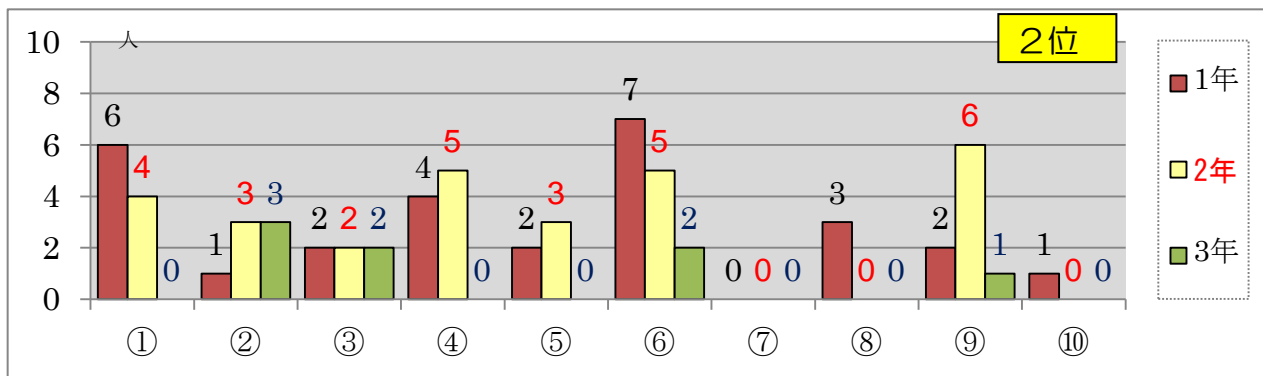
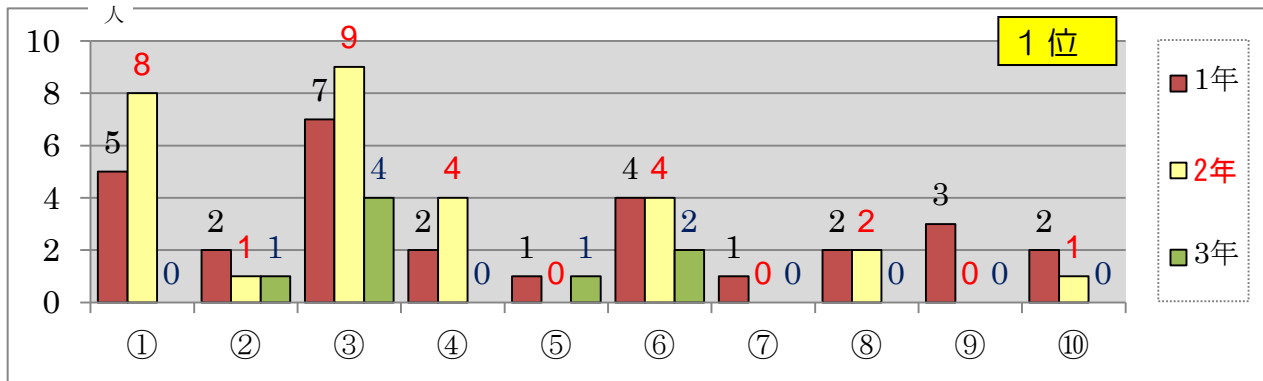


学校行事が楽しいか



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
 ⑥ クラブ活動面 ⑦ 市町からの色々な支援制度 ⑧ 親や家族のすすめ ⑨ 友人関係 ⑩ その他

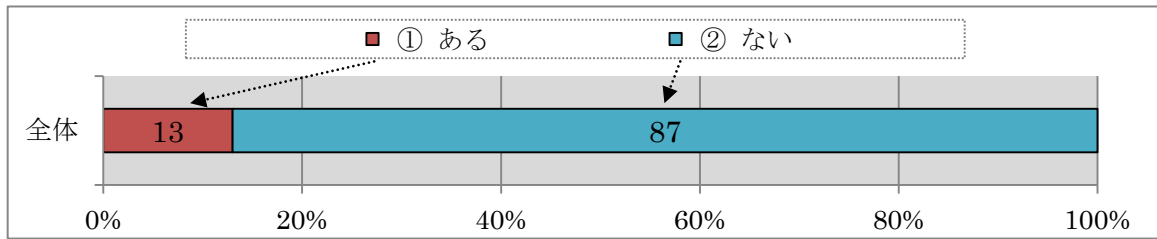
<各学年別の人数では>



考察 ・2校全体での1位で多い順は、1位：③「進路実績」(30%)、2位：①「通学便」(20%)、3位：⑥「クラブ活動面」(15%)となっている。(昨年度は1位：「通学便」、2位：「教育内容面」)、3位：「進路実績」)
 ・2校全体での2位で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(22%)、2位：①「通学便」(16%)、3位：④「教育内容面」・⑨「友人関係」(14%)となっている。
 ・2校全体での1位+2位で多い順は、1位：③「進路実績」(20%)、2位：⑥「クラブ活動面」(19%)、3位：①「通学便」(18%)となっている。
 ・各学年別に見たときの特徴として言えることは、1学年と2学年はだいたい同じような傾向が見られる。
 以上のような結果は昨年度とほぼ同様で、生徒が高校選択する時の重要項目は、「進路実績」「クラブ活動面」「通学便」に収れんできる。よって、それらが充実していくような取り組みや支援策を今後も検討していく必要がある。

Ⅱ. 油木高校生に係るアンケート調査の結果と考察

1 (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。

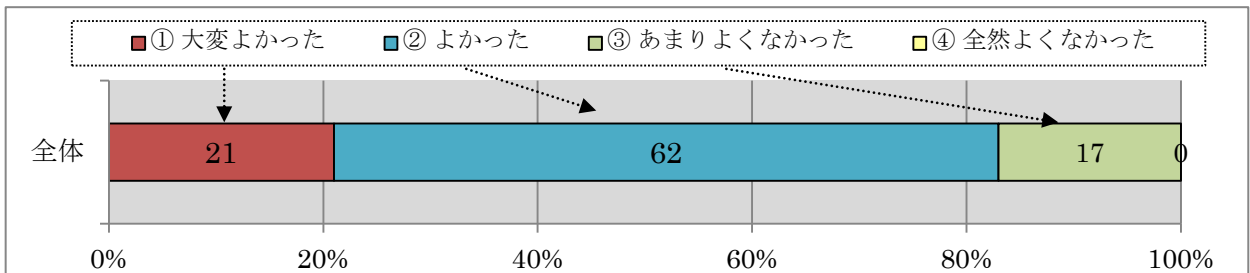


「ある」と答えた生徒は 23人(13%)で、昨年度19人(12%)より若干増加している。

活動内容としては

- ・部活動(13人) ・オープンスクール(3人) ・体育祭(2人) ・文化祭(2人)
- ・英語スピーチコンテスト(1人) ・植栽活動(1人) ・ゴミ回収(1人)

(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

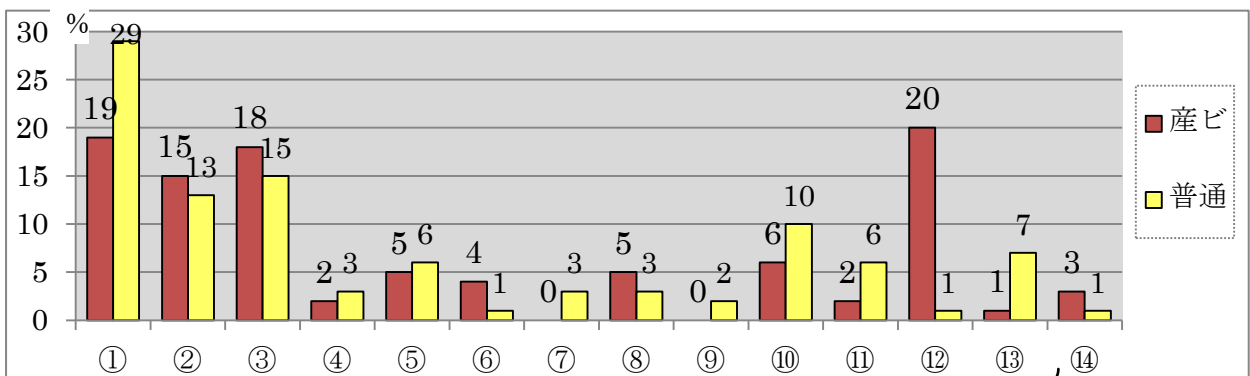


考察 (1)からも分かるように、生徒同士の交流人数が10%台と少なく、今後50%以上になるようできるだけ計画的に仕組んでいく必要がある。 何故なら、(2)において交流した多くの生徒(83%)が「大変よかった・よかった」と肯定的評価をしているだけに、今後において交流実践の場が求められる。

生徒交流では、「部活動交流」や「生徒会交流」などを中心に徐々にも取り組まれることを期待している。

2 あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。(複数回答可)

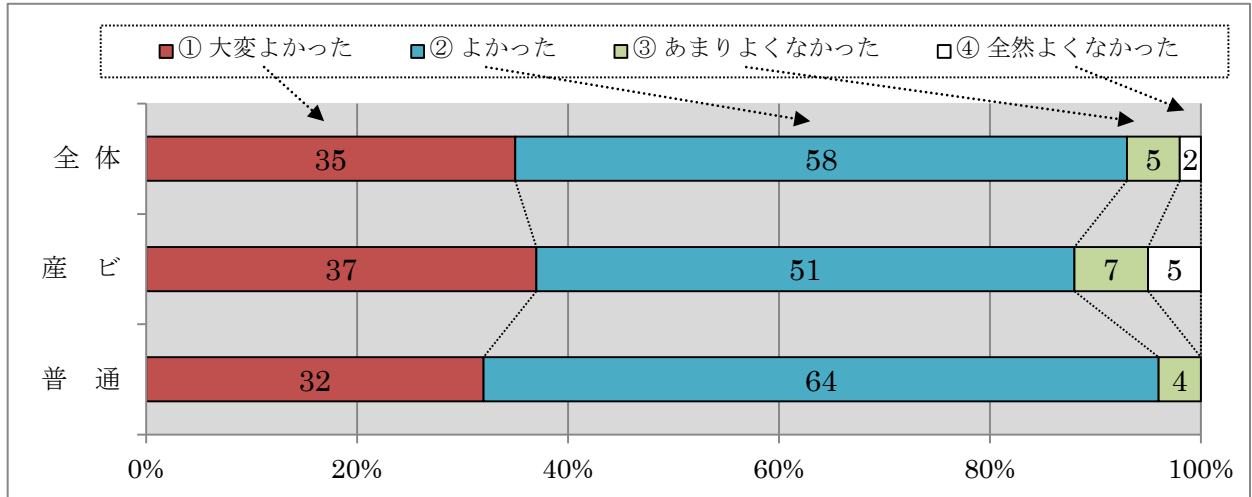
- ① 自宅から近い ② 親・家族の薦め ③ 自分の希望 ④ 教育内容面
- ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある ⑦ 通信衛星授業がある ⑧ 進路実績
- ⑨ 評判 ⑩ 友人関係 ⑪ 経費が安い ⑫ 学科への興味
- ⑬ 地域の応援や町からの色々な支援制度がある ⑭ その他()



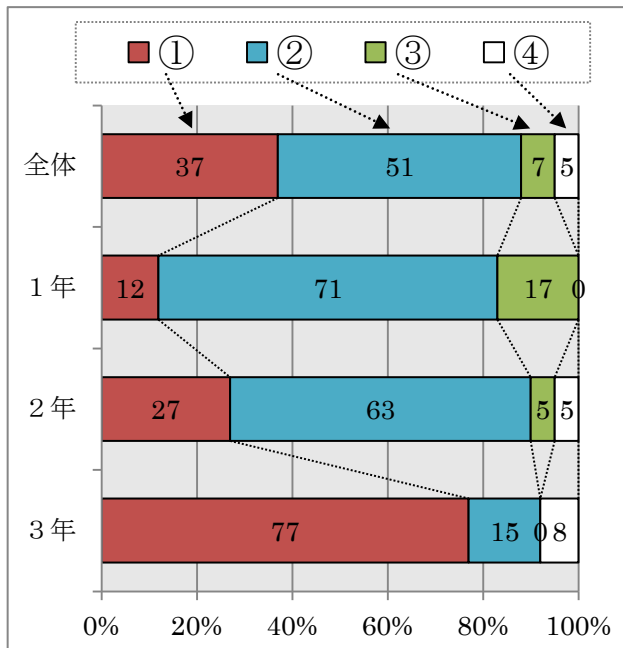
仕方なく行かされた、成績、他にいくところがなかった、新寮ができる、近くの高校より良い、先生の薦め、流れて

考察 全体的に多いのは、①「自宅から近い」③「自分の希望」②「親・家族の薦め」の順であるが、学科ごとにみると、普通科は圧倒的に①「自宅から近い」が多く、産業ビジネス科は、⑫「学科への興味」が最も多いことが特徴としてあげられる。

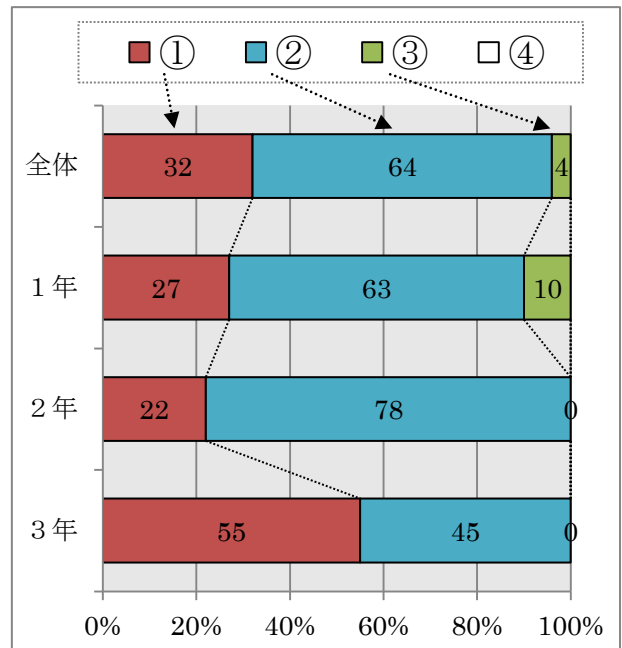
③ あなたは油木高校へ進学して、どうですか。



<産業ビジネス科>



<普通科>



考察 全体的には昨年度と同様に多くの生徒（93%）が「よかった」と肯定的評価をしている。しかし、「大変良かった」とする者は、昨年度より10%減の35%であった。

学科ごとにみると、「よくなかった」と否定的評価をしている生徒は、産ビ12%、普通科0%であった。その中で、「全然よくなかった」とする生徒は、産ビ5%であった。その要因は何か学校として追究できるとよい。

学年ごとでは、概して高学年ほど「よかった」とする肯定的評価が高い。中でも、産業ビジネス科3年生の77%が「大変良かった」と評価しているのは素晴らしいことである。

4 (1) 本年度、通信衛星授業を受けたことのある人だけ教えてください。

[受講回答者 52人 (普通科：38人, 産ビ科：14人)]

Q 通信衛星授業を受けてみての感想はどうか？ また、そう思う理由で、具体的に何かあれば書いてください。

① 大いに役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全然役に立たない

	普通科 (1・2・3年)	産ビ科 (1・2・3年)	計 (%)	理由
①	10人 (1・4・5人)	3人 (1・0・2人)	13人 (25%)	・予習復習に役立つ(3) ・休日も学習する習慣が身についた ・とても分かりやすい ・大学入試の勉強になる
②	23人 (12・8・3人)	4人 (3・1・0人)	27人 (52%)	・丁寧な指導で分かりやすい(2) ・予習になる(2) ・1教科時間が長くて分かりやすい ・古典は詳しく説明があるので役立つ ・ついて行けなかった
③	5人 (2・1・2人)	4人 (2・2・0人)	9人 (17%)	・その場で質問ができず、分からないまま進んでしまう ・少し難しい ・ペースが速くて頭に入らない ・ただ見るだけになる ・全く分からない ・雑談が長い
④	0人	3人 (2・0・1人)	3人 (6%)	・質問できないので分かりにくい ・時間が長い

考察 受講生の多くは普通科生(73%)であるが、大多数の生徒(77%)が「役に立つ」との肯定的回答であった。中でも「予習・復習、学習習慣、大学受験等に役立つ」と理由を述べていることなどからも、この事業は継続していく必要がある。また、前述の間2(油木高校を選択した理由)からも分かるように、普通科生の学校選択理由に「通信衛星授業がある」ことを上げている者(3%)もいることから、この事業の継続は必要と思われる。

(2) 1, 2年生のみ教えてください。

Q 来年度、通信衛星授業を受けますか。

① 受ける ② 受けない ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 受ける	3人	6人	9人 (15%)	2人	0人	2人 (4%)	11人
② 受けない	14人	14人	28人 (45%)	17人	29人	46人 (79%)	74人
③ わからない	13人	12人	25人 (40%)	4人	6人	10人 (17%)	35人

考察 現時点での受講希望者は11人と少ないが、費用対効果等もあるので、少しでも受講生が増える取組や学習効果の上がる対策などが望まれる。

(3) 本年度、1～2年生の中で、「はやぶさ塾」に参加したことのある人だけ教えてください。

[受講回答者 30人 (普通科：27人，産ビ科：3人)]

Q 「はやぶさ塾」に参加してみたの感想はいかがですか。

① 大いに役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全然役に立たない

	普通科 (1・2年)	産ビ科 (1・2年)	計 (%)	理由
①	8人 (4・4人)	3人 (1・2人)	11人 (36%)	・分かりやすく教えてもらえる (2) ・楽しい ・分からないところが聞けて良い ・基礎が学べる ・勉強する習慣がつかうのがよい ・全学年の復習ができる
②	15人 (5・10人)	0人	15人 (50%)	・自分の力に合わせて基礎から学べる ・テスト範囲のプリントができる ・少しずつ成績が伸びている
③	2人 (0・2人)	0人	2人 (7%)	
④	2人 (0・2人)	0人	2人 (7%)	

考察 本年度、受講生の多くは普通科生 (90%) で、中でも2年生が20人 (実質は14人)、1年生が10人であった。受講しての評価は、「役に立つ」との肯定的評価が86%と多くの生徒が役立ち感を持っている。

今後、学校・町・業者の3者協議をもって1年間を総括しながら、次年度一層の費用対効果が上がるよう取り組んでいく必要がある。

(4) 1, 2年生のみ教えてください。

Q 来年度、「はやぶさ塾」に参加したいですか。

① 参加したい ② 参加したくない ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 参加したい	7人	5人	12人 (21%)	0人	0人	0人 (0%)	12人
② 参加したくない	10人	8人	18人 (31%)	15人	30人	45人 (79%)	63人
③ わからない	10人	18人	28人 (48%)	6人	6人	12人 (21%)	40人

考察 現時点での「受講希望者」は、普通科で12人 (21%) あるが、受講許容人数50人にはまだ十分余裕があるため、「わからない」が約50%いるので、新1年生も含めて、十分な紹介が必要である。

(5) 1, 2年生のみ答えてください。

Q 来年度、オーストラリア海外研修への参加希望がありますか。

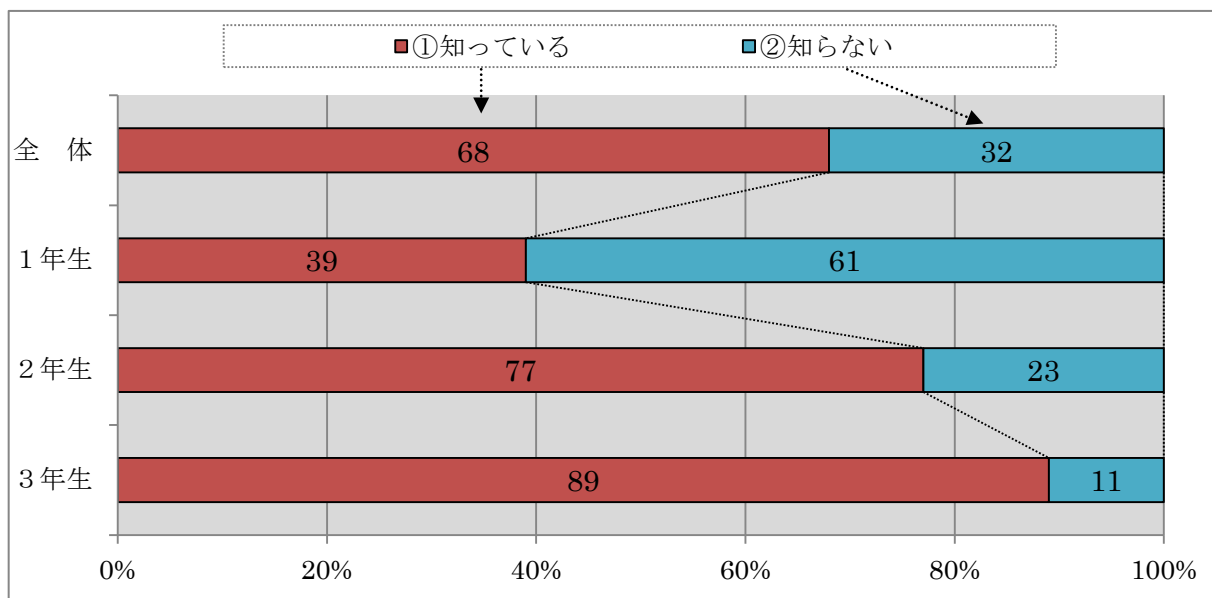
① 希望あり ② 希望なし ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 希望あり	7人	6人	13人 (21%)	2人	3人	5人 (8%)	18人
② 希望なし	14人	11人	25人 (41%)	14人	27人	41人 (70%)	66人
③ わからない	9人	14人	23人 (38%)	6人	7人	13人 (22%)	36人

考察 本年度は事業初年度であっただけに、参加希望者（4名）が少なかったが、来年度の「参加希望あり」は現時点で18名あることは大変喜ばしいことである。しかし、参加人数制限は、各科とも2名ずつとなっているので、本年度の反省を踏まえた取組が実施されるよう、早めの準備が必要と思われる。

(6) 1～3年生まで全員答えてください。

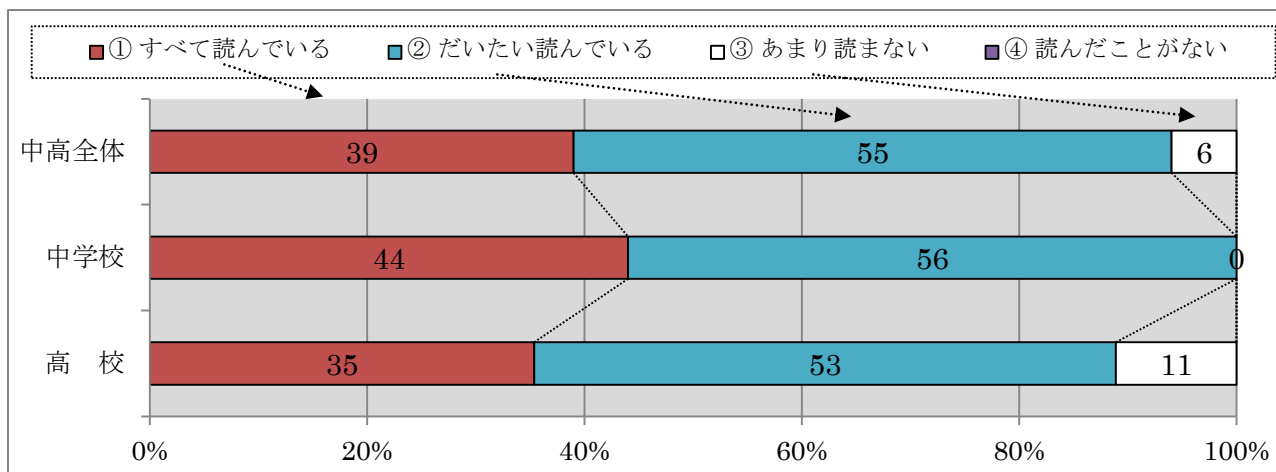
Q 部活動等で遠征時のバス代補助が神石高原町から出ていることを知っていますか。



考察 全体的には約2/3の生徒は「知っている」ようである。高学年ほどその認知度は高い。しかし、1年生は40%と半分以下ということは、入学前の中学校時のPRが不足していると思われる。「部活動の遠征費補助」は油木高校の魅力の一つでもあるので、しっかりと知ってもらえるよう紹介時の工夫が必要である。

Ⅲ. 町内中学校・油木高校教職員に係るアンケート調査の結果と考察

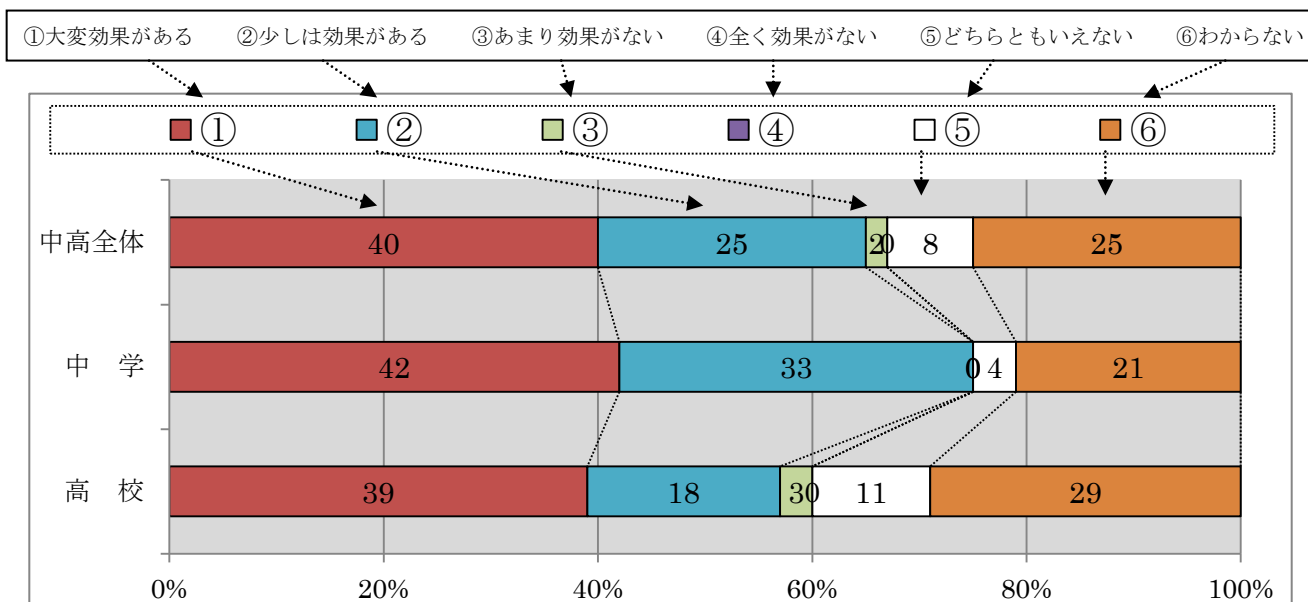
1 広報紙「中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」・「神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援」や「油木高校ガイドブック」などを学校に配布していますが、読まれていますか。



考察 「すべて読んでいる」「だいたい読んでいる」を併せて94%で、今後も教育指導や地域理解につながる中身の情報提供をしていくことが重要である。

2 中高連携の中で、交流授業、部活動交流、学校行事への参加、教職員の交流などが実施されていますが、連携教育の効果についてどう思われていますか。

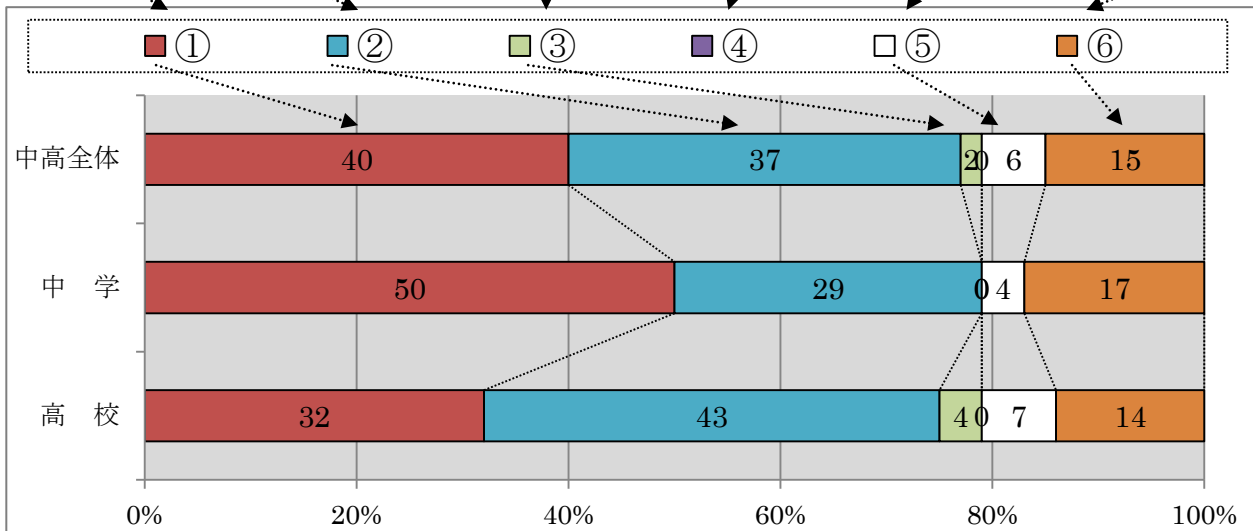
(1) 定例的な授業交流（高→中：数学、中→高：音楽・英語）について、どう思われていますか。



考察 本年度の交流授業は、中学校では高学年を中心に数学を、高校においては音楽を選択生徒のみ対象、英語は1年生を中心に実施されており、中高でそれぞれ実施状況は違うが、中高共に半数以上が「効果がある」との肯定的評価であり、中でも「大変効果がある」とする数値は約40%と最も高い。

(2) 部活動交流について、どう思われていますか。

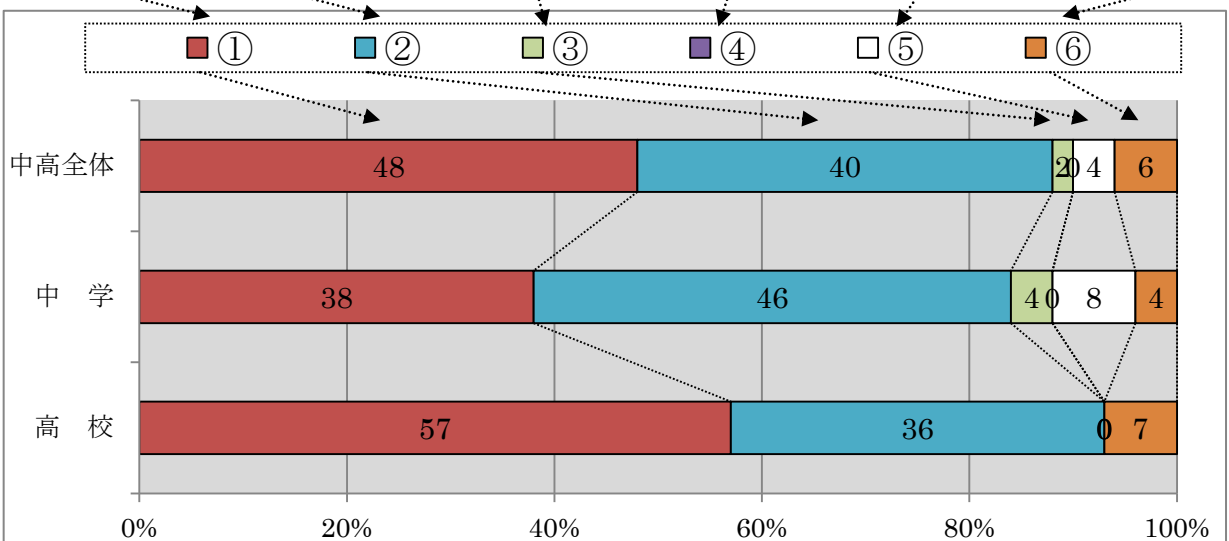
①大変効果がある ②少しは効果がある ③あまり効果がない ④全く効果がない ⑤どちらともいえない ⑥わからない



考察 全体的には、約80%の者が「効果がある」としている。中でも、中学校の50%が「大変効果がある」としており、高校側からすれば少し物足りない(32%)部分もあると思われるが、中学生が高校選択をする上で重要視しているものとして、「クラブ活動面」をあげている生徒が多い(第2位)だけに、今後においても「部活動交流」を充実させ、中高一貫教育の成果や高校入学率の向上につながっていけばと考える。

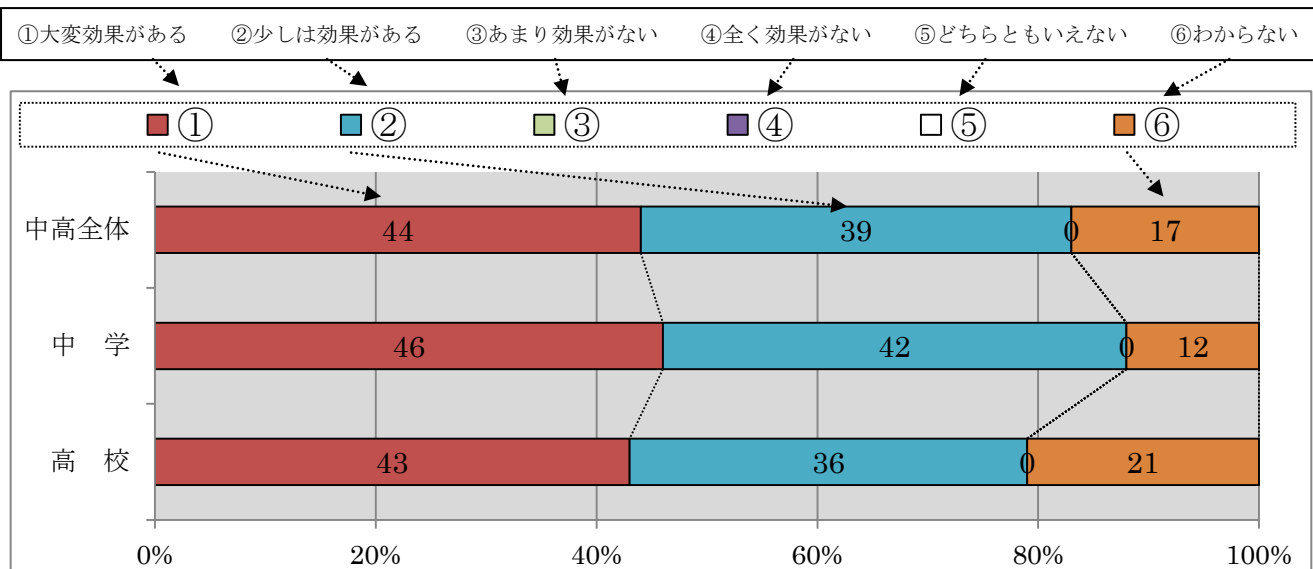
(3) 学校行事(体育祭・文化祭・学習成果発表会など)への参加について、どう思われていますか。

①大変効果がある ②少しは効果がある ③あまり効果がない ④全く効果がない ⑤どちらともいえない ⑥わからない



考察 中高共にほとんどの者(88%)が「効果がある」としている。中でも、高校は「大変効果がある」が57%と半分以上が高い評価である。今後においても、学校間で連携調整を図り、創意工夫しながら、生徒同士の交流を深めたり、教育効果の向上を目指して行事連携が実践できるよう努めていく必要がある。

(4) 教職員の交流について、どう思われていますか。



考察 概して「効果がある」とするものの、「わからない」とする者もかなりある。それだけに今後においては、各交流の中身を総括しながら企画していく必要がある。そのためには、中高一貫教育推進委員会事務局レベルで各校の意見を集約し、検討していくことが求められている。

(5) こんな中高連携をしたらという提案があれば書いてください。 (自由記述)

神石高原中学校

- ・学力向上のための中高連携 ・入試制度への提言 ・時間に余裕があれば教職員間の交流を深めたい
- ・部活動交流は活動時間が揃えば、中学生の良い手本となる ・授業を見せていただき勉強になりました
- ・生徒にとっても中高の先生が行き来することは有意義だと思いました

三和中学校

- ・中高連携をもっと多く取り入れて活性化したらよい ・英検、漢検、数検などの合同実施
- ・地域ボランティア活動 ・現状のまままでよい

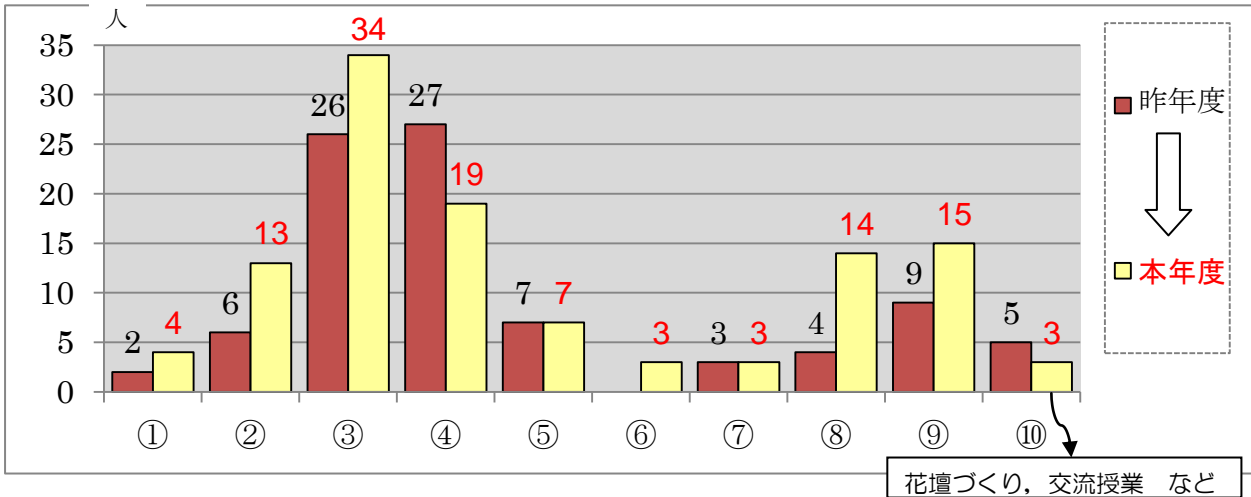
高校

- ・教職員の交流を活性化する ・各校の行事を吟味し、一緒に参加する企画を増やす
- ・「明日ある我ら」の時間を用いて、高校生による中学生への授業 ・人数の少ない部活動の交流
- ・高校の内容を中学で取り上げていけるようにカリキュラムの弾力化が必要
- ・通常の授業参観 ・将来の合同体育祭

これらの提案・意見については、中高一貫教育推進委員会で検討していく必要がある。

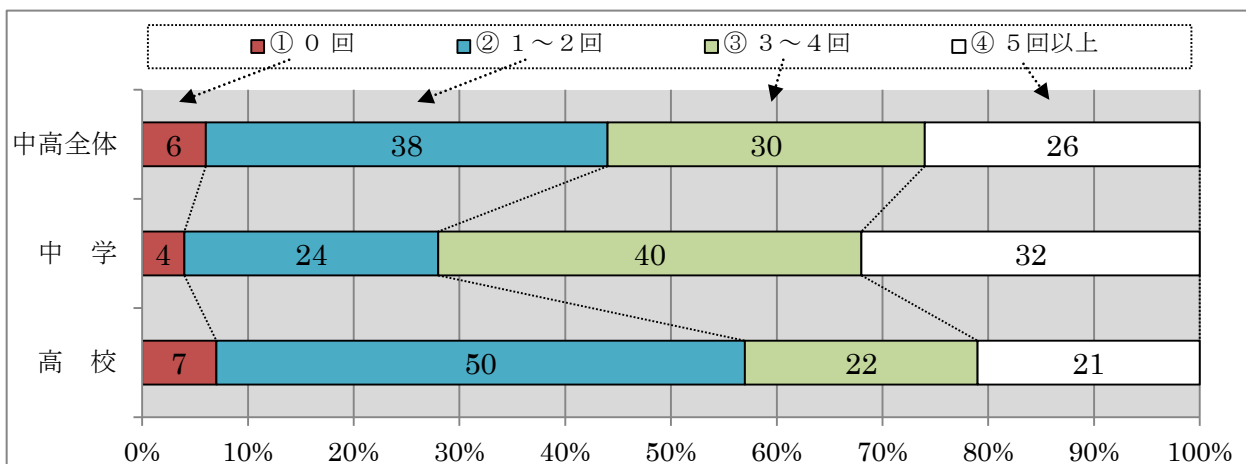
③ (1) 下欄①～⑩の中高一貫教育に係る取り組みの中で、本年度自分が参加したものについて、該当する番号にすべて○印をしてください。（複数回答可）

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------|
| ① 出前授業（高校英語入門講座も含む） | ② 部活動交流 | ③ 町研夏季全体研修会 |
| ④ 教科部会（授業研究など） | ⑤ 教科外部会（進路・生指・連携など） | |
| ⑥ 中高一貫教育支援会議総会（6月30日） | ⑦ 中高一貫教育講演会（11月27日） | |
| ⑧ 中高の公開研究会 | ⑨ 油高の行事等（中→高、高→中の文化祭・体育祭への参加） | |
| ⑩ その他（ ） | | |



考察 昨年度と比較した時、④「教科部会」を除いて、他の項目は全て右肩上がりの増加に転じている。これは大変よい傾向である。ただ、参加人数が少ない項目（5人以下）もあり、今後徐々にでも増加していくことを期待したい。中でも、連携教育の3本の柱としている、教科連携、教科外連携、部活動・生徒会・行事連携が活発化していくことを望んでいる。

(2) 上記 ③ (1)で、参加した回数は総合計で何回ありますか。

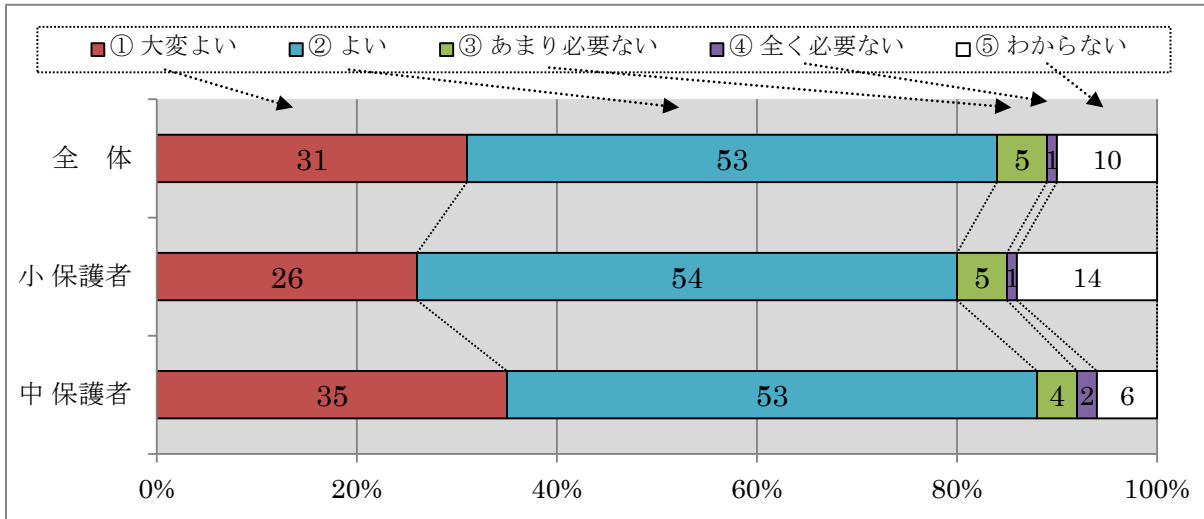


考察 昨年度は2回までが全体としては62%を占めていたが、本年度は44%とかなり減少し、反対に「3～4回」が20%→30%に、「5回以上」が18%→26%に増加しており、教職員の積極的な参加が伺える。

来年度は中高一貫教育が本格実施されて3年目を迎えるが、できるだけ各校とも全校体制で教育実践が積み上げて行かれることを願っている。

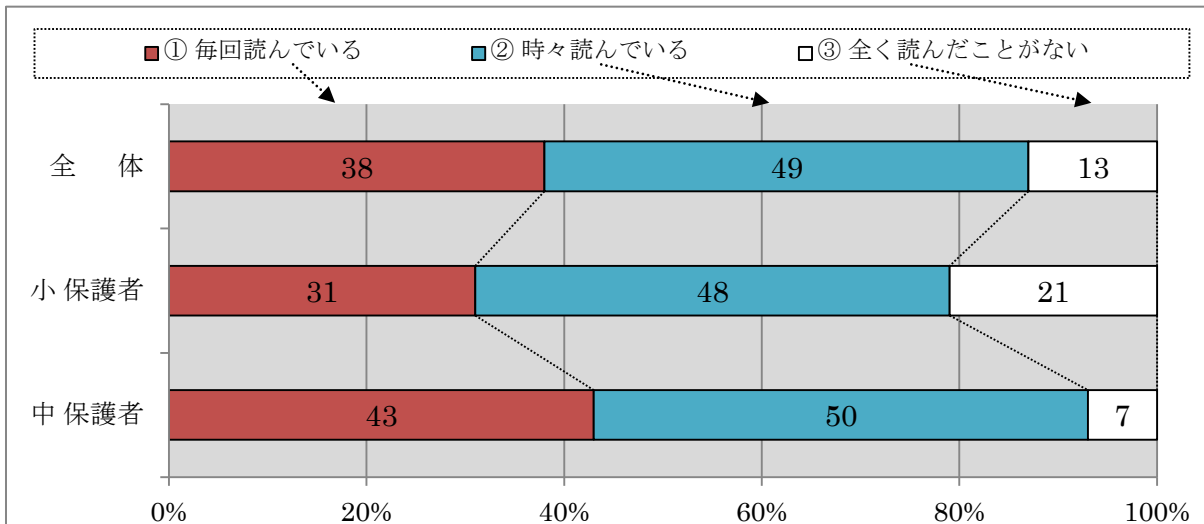
IV. 小学校(4～6年生)・全中学校 保護者 に係る調査の結果と考察

- ① 現在、油木高校と町内中学校との連携教育（例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など）が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



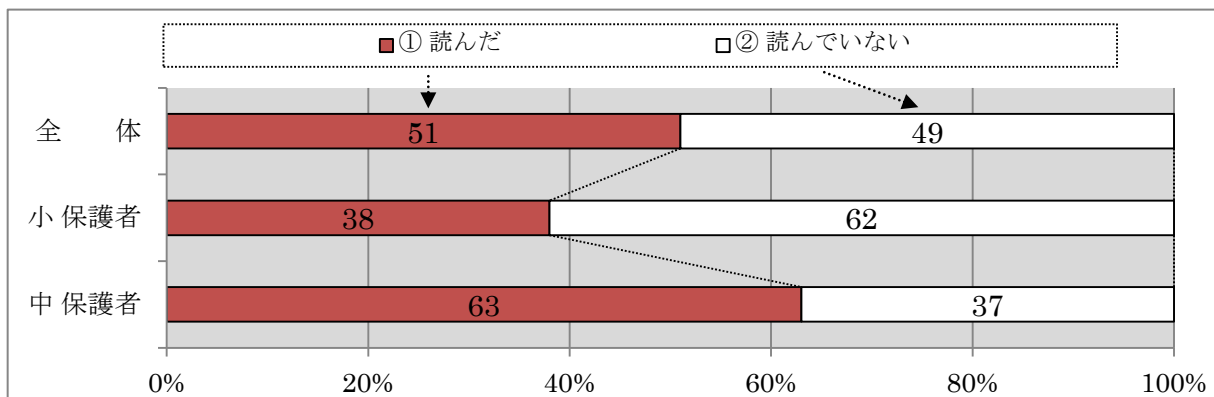
考察 全体としては「よい」とする肯定的評価が 84%と高い。小中を比較した時、若干中学校の方が肯定的評価は高い。一方、「わからない」とする数値は小学校が高いだけに、今後引き続き、連携実践の中身や効果について情報提供していく必要がある。

- ② 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読んでおられますか。



考察 多くの保護者に読んで頂いている。今後も「毎回読んでいる」が50%以上になるよう魅力ある中身づくりに努めていかなければならない。

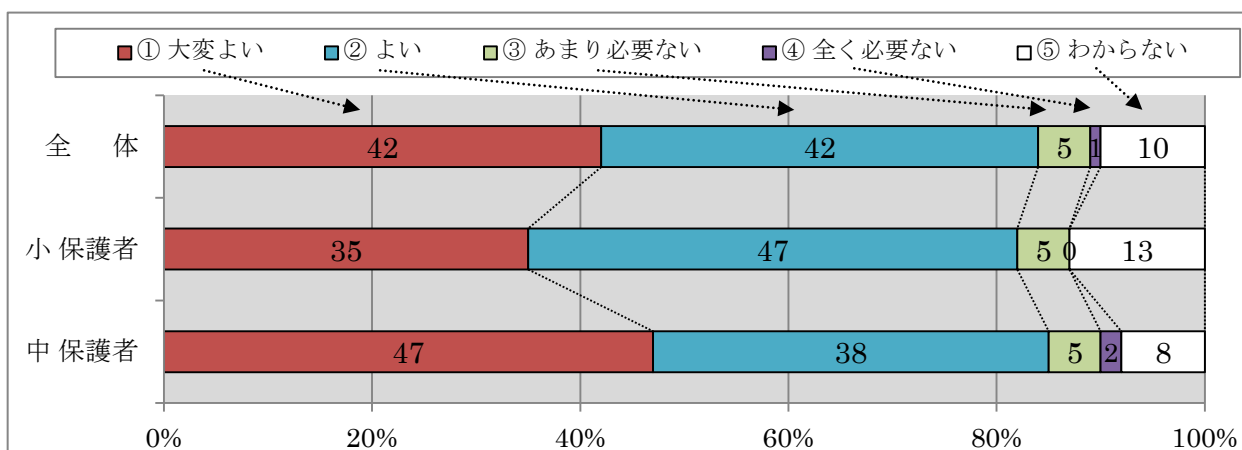
③ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援』パンフレットを読まれましたか。



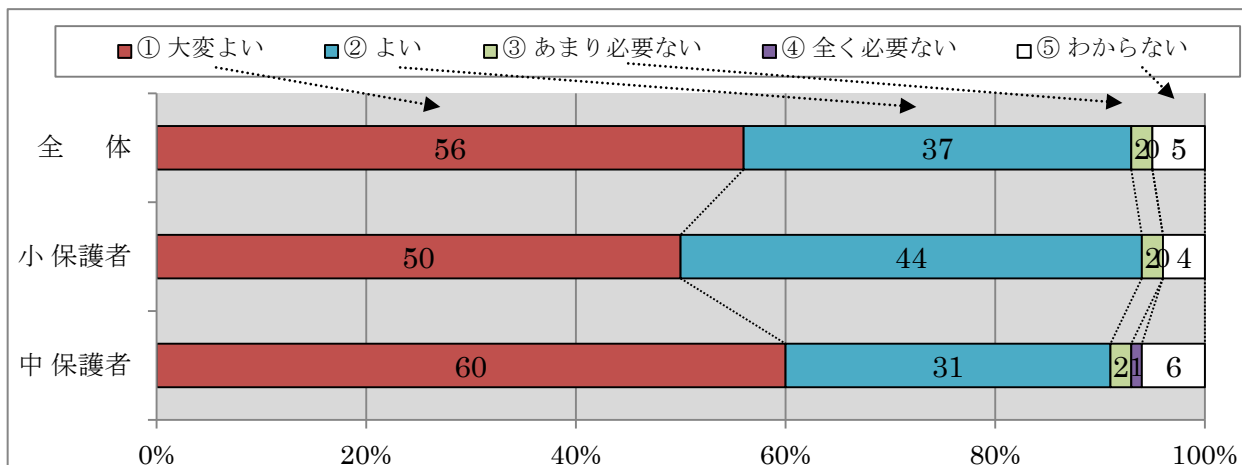
考察 全体としては約半数の人（51%）が読まれている。小学校と中学校では「読んだ」「読んだことがない」の数値が正反対状況である。本町が実施している「7つの支援」は、油木高校の魅力でもあるので、しっかりと関係保護者に知ってもらえるよう、今後もパンフレットの配布は継続していきたい。

④ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

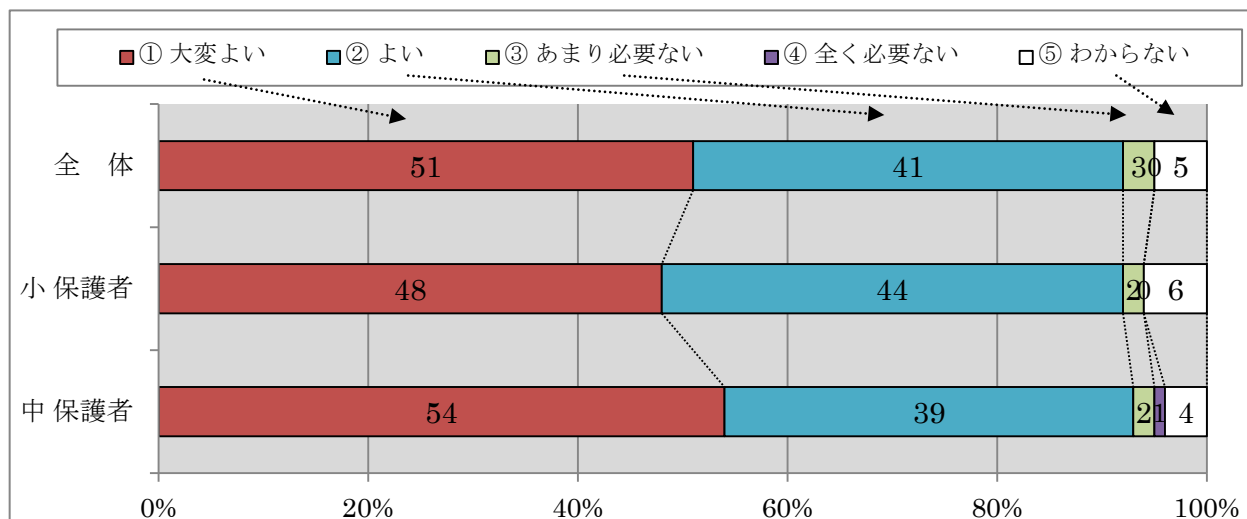
(1) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。



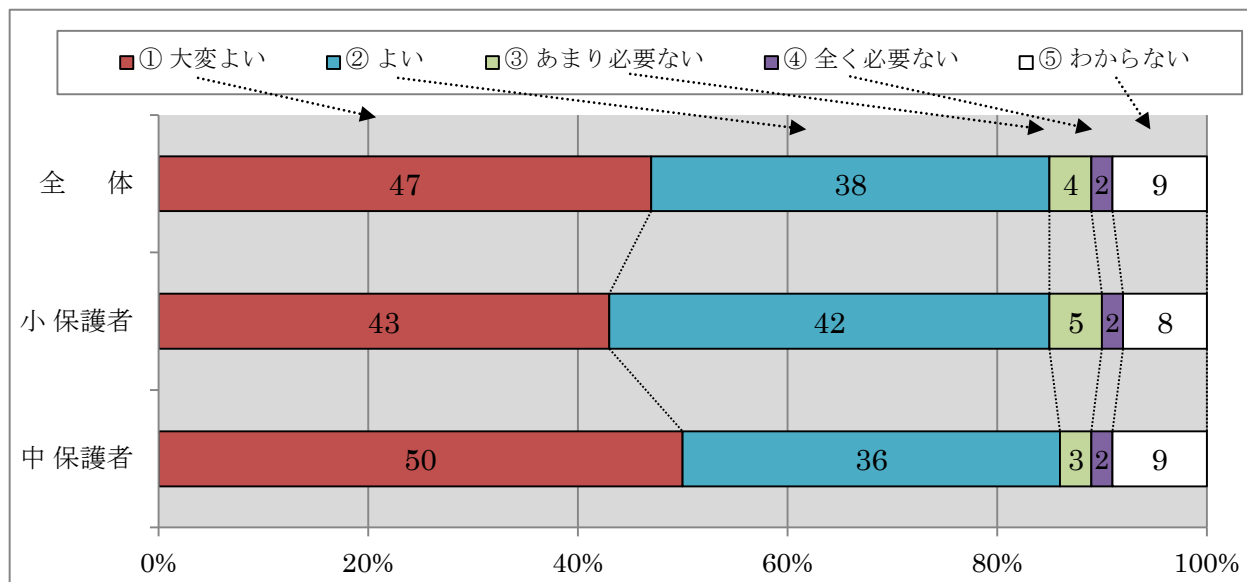
(2) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。



(3) 油木高校内での学習支援塾の開設について、どう思いますか。



(4) 海外短期（語学・農業）研修事業への支援について、どう思いますか。



考察 すべての項目において、80%以上の者が「よいことである」と肯定的評価をされている。中でも、「部活動遠征費補助」と「学習支援塾」については90%以上もの高い評価である。

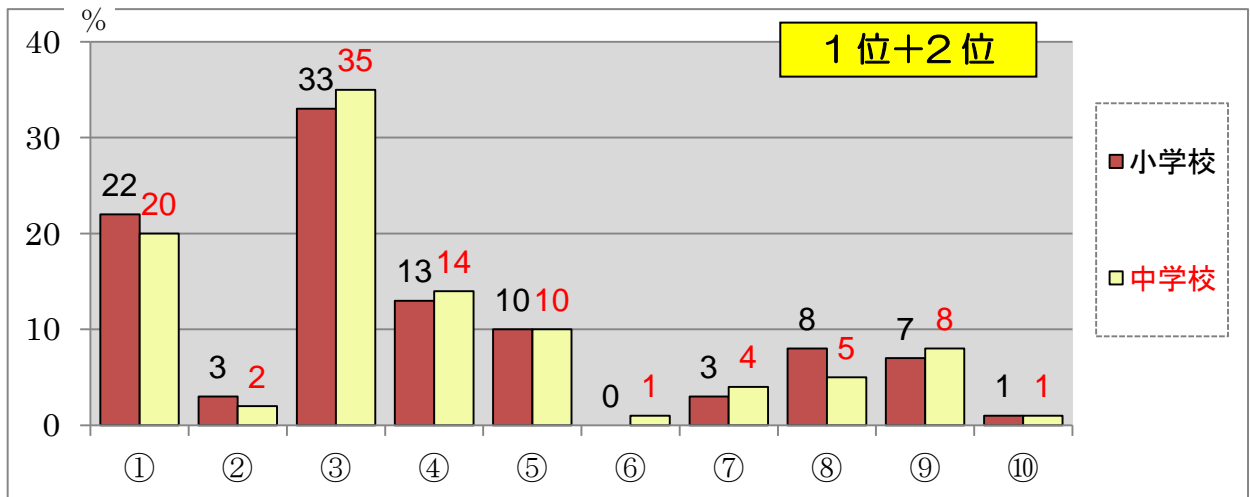
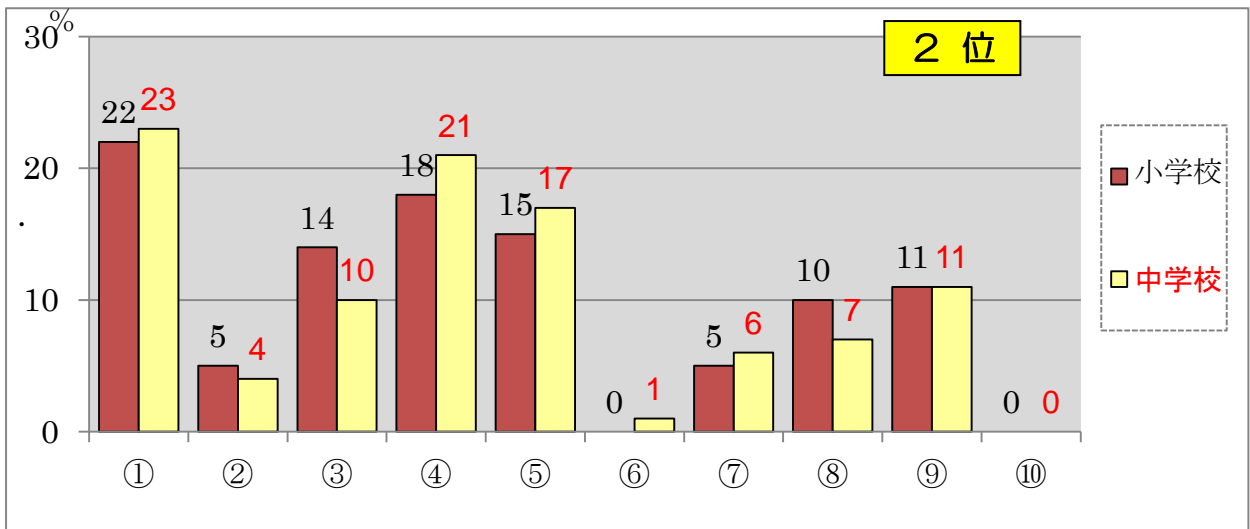
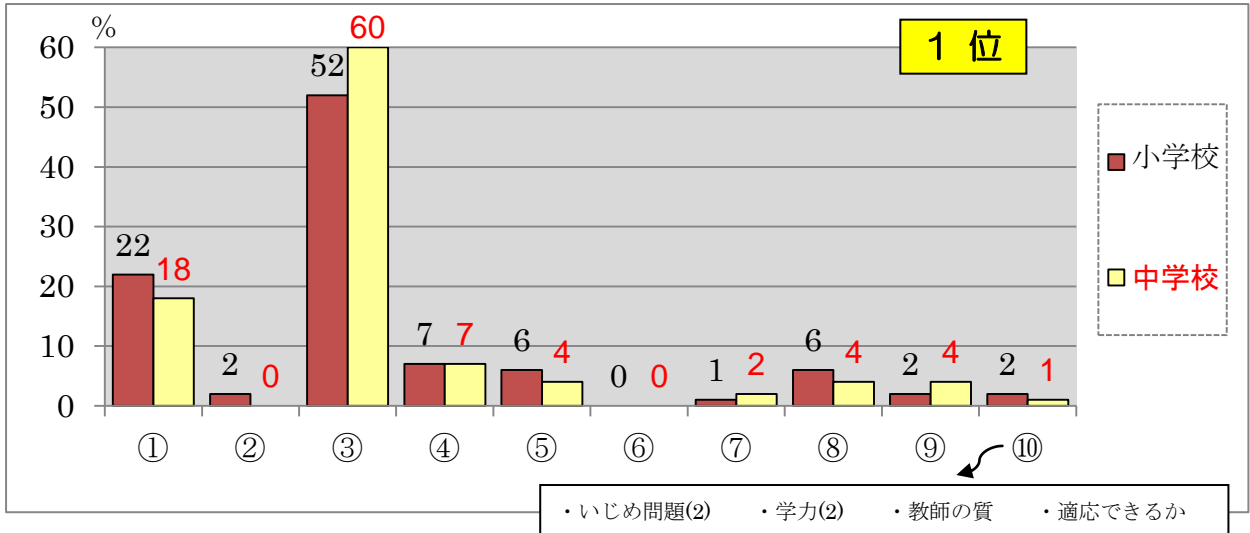
小・中学校で見ると、すべての項目において小学校より中学校の方が「大変よいことである」との評価が高い。

これらのことから、すべての項目において保護者の期待度は高いだけに、今後とも支援制度の維持と中身の充実を図りながら、更なる油木高校の魅力づくりに繋げていく必要がある。

5 子どもの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ（1位・2位）選んでください。

- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



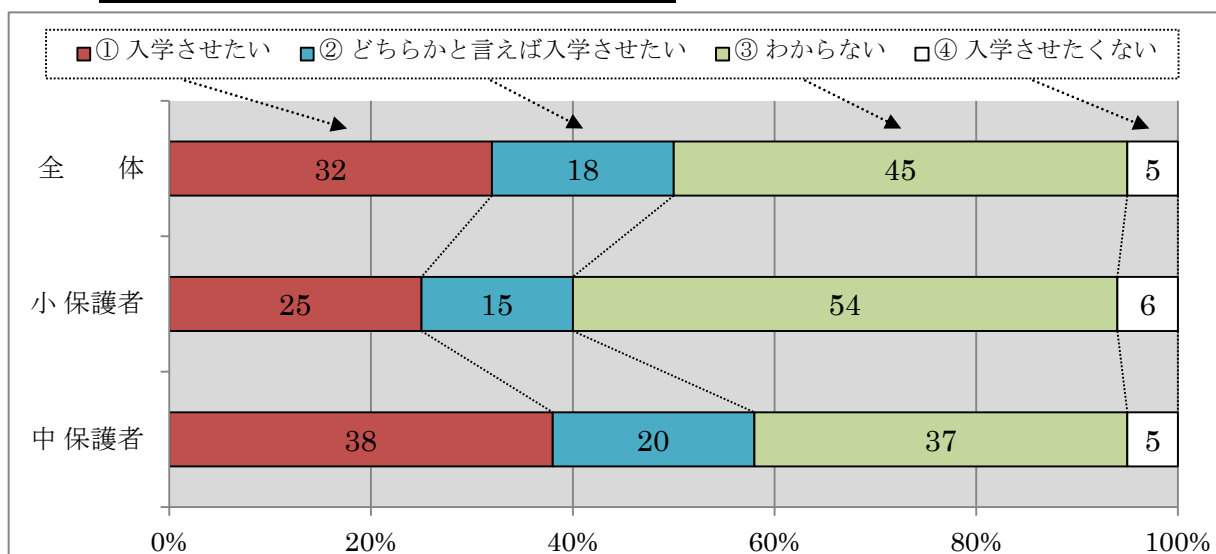
考察 小学校と中学校を比較した時、例年のごとくほとんど同じような傾向にある。

即ち、高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことで多いものとしては、③「子ども本人の希望」が小中学校共に際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」であった。

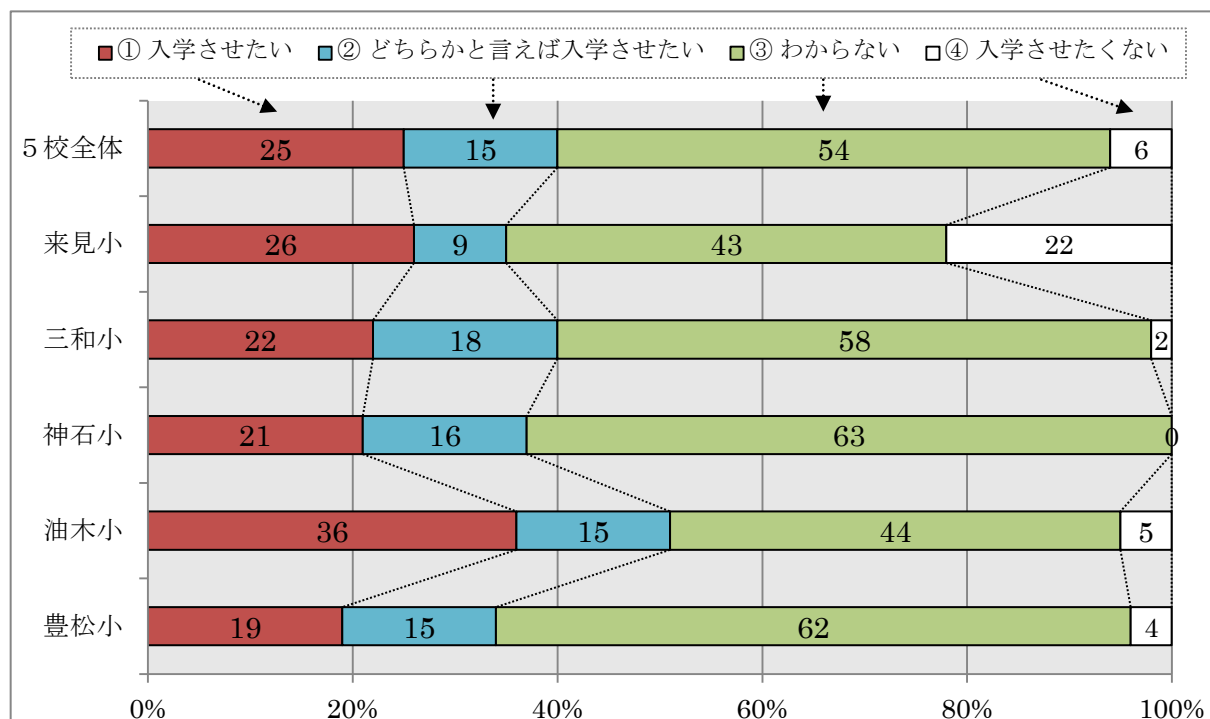
このことから、保護者の半数以上は「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

また、「通学便」もかなり重要度が高いことから、できる支援策を今後においても検討しながら、魅力アップにつなげていく必要がある。

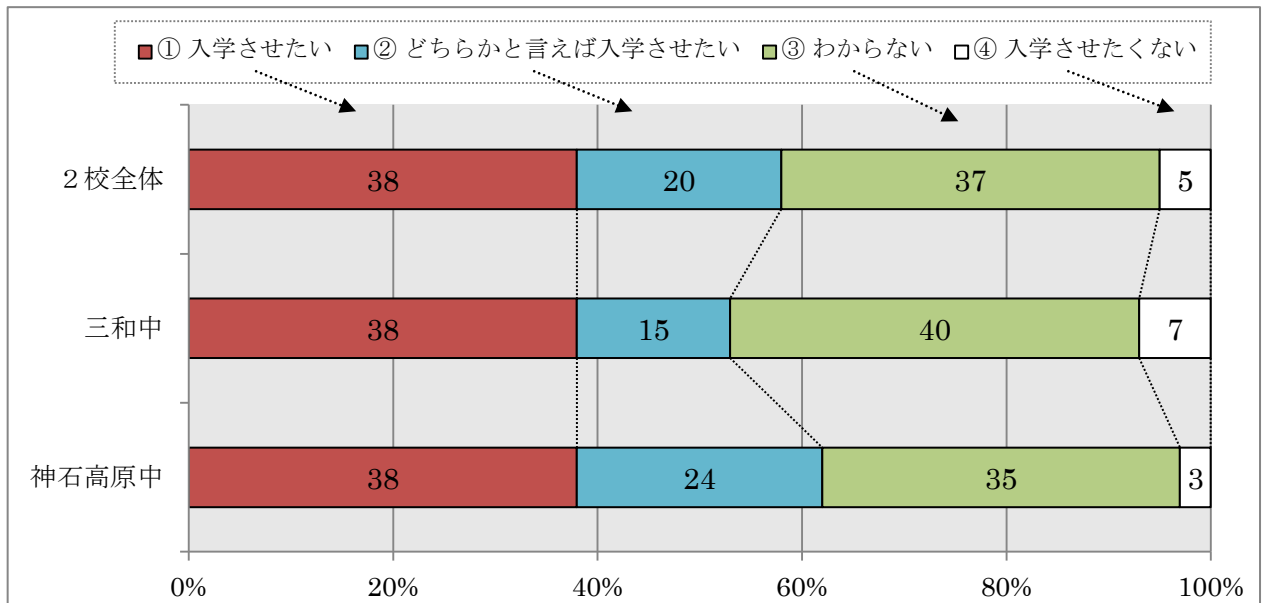
⑥ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



<各中学校別では>



考察 ・全体としては、「入学させたい」が50%（昨年：46%，一昨年：42%）と年々増加傾向にある。

・小中学校別では、「入学させたい」が13%中学校が上回っている。一方、小学校はまだ高校への進路選択を具体的に考えにくいのか、「わからない」との回答率が17%小学校の方が高い。

・各学校別の小学校では、油木小の「入学させたい」肯定的回答が51%と一番高い。一方、「入学させたくない」回答率では、来見小（22%）が2桁の数字であった。中学校は2校ともほぼ同じような回答率である。そして、両校とも「入学させたい」回答率が50%以上あった。しかし、小中学校共に「わからない」の回答が多だけに、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりに向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

V. 町内地域に係るアンケート調査の結果と考察

- 1 下欄①～②の連携型中高一貫教育に関連する行事で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で教えてください。(複数回答可) ③：③の(1)～(8)の中で該当する番号にすべて○印で教えてください。(複数回答可)

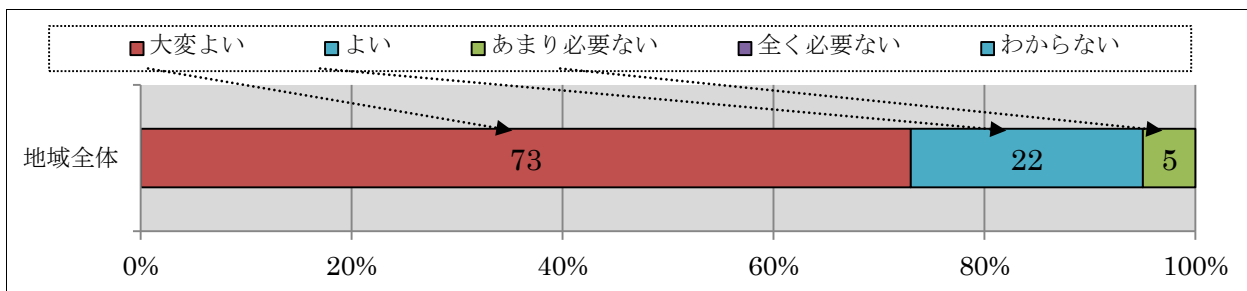
- ① 連携型中高一貫教育支援会議総会(6月30日)
 ② 中高一貫教育講演会(11月27日) 演題：地域活性化と高校再編整備(大阪府立能勢高校校長)
 ③ 油木高校に係る行事
 (1) 学園祭(6月13・14日) (2) 体育祭(9月19日)
 (3) 農業系の発表会(農業クラブ意見発表会など) (4) 部活動等の大会(地区、県、全国大会など)
 (5) 総合的な学習成果発表会(「明日ある我ら」発表会) (6) 学校へ行こう週間(学校公開日：11月2日)
 (7) ヒューマンフェスタ(11月7日) (8) その他()

≪ 回答頂いた方は 74名/96名(77%)でした。その中で参加された人数内訳は次の通りです。≫

行事名	① 支援会議 総会	② 中高一貫 講演会	③ 油木高校に係る行事								
			(1) 学園祭	(2) 体育祭	(3) 農業系 発表会	(4) 部活動	(5) 学習成 果発表	(6) 学校へ 行こう	(7) ヒュー マン フェスタ	(8) その他	
参加人数	本年	41人	38人	17人	14人	9人	10人	9人	4人	17人	3人
	昨年	40人		23人	17人	12人	7人	10人	7人		5人

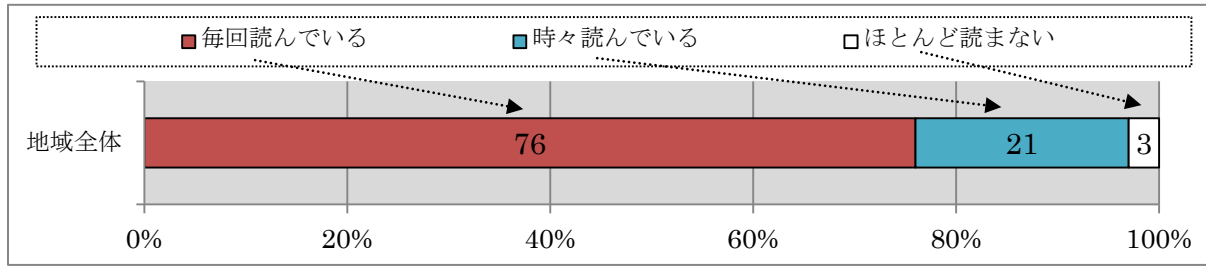
考察 地域編のアンケート調査は中高一貫教育支援会議役員(96名)を対象に実施したが、回答頂いた(74名)中で、半数以上の方が「①支援会議総会」(55%)及び「②中高一貫教育講演会」(51%)に参加いただいている。また、油木高校のいろいろな行事にも熱心に参加いただいております。地域の温かい理解と支援に感謝しながら、中高一貫教育が今後一層発展するよう努力していく必要がある。

- 2 現在、油木高校と町内中学校との連携教育(例：中高交流授業、部活動交流、学校行事への相互参加、教職員の交流など)が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



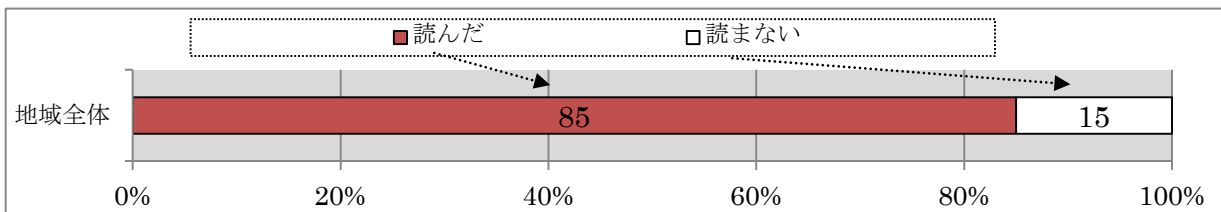
考察 地域の多くの方々(95%)は、中高の連携教育を「よい」とする肯定的評価である。それだけに、中高一貫教育が今後益々推進されるよう中身の充実を図っていく必要がある。

③ 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読まれていますか。



考察 ほとんどの方々に読んで頂いている。今後も「毎回読んでいる」が一層向上するよう魅力ある中身づくりに努めていかなければならない。

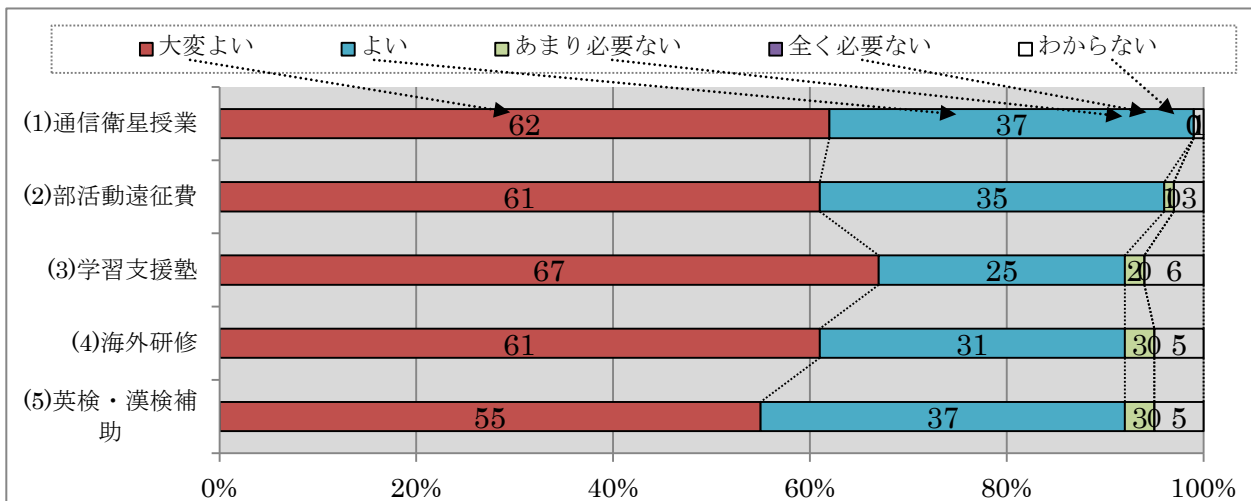
④ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への7つの支援』パンフレットを読まれましたか。



考察 多くの方々（85%）に読んで頂いているようである。しかし、「読んでいない」が15%あることや、本町が実施している「7つの支援」は、油木高校の魅力でもあるので、しっかりと地域の方々に知ってもらい、意見も頂きながら検討していくためにも、パンフレットの配布は今後も継続していきたい。

⑤ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

- (1) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。
- (2) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。
- (3) 油木高校内での学習支援塾の開設について、どう思いますか。
- (4) 海外短期（語学・農業）研修事業への支援について、どう思いますか。



考察 各項目とも「大変よい」「よい」を合わせて90%以上を占めており、肯定的評価が非常に高い。しかも「大変よい」が60%以上あり、最も多い。

この数値が示すように、地域住民の期待も大きいことから、今後もこれらの支援は継続していく必要がある。